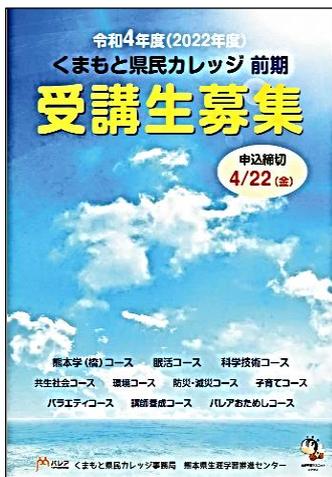


令和4年度(2022年度)調査研究事業報告書

生涯学習事業に係る県内の現状 及び県外の先進事例



【R4くまもと県民カレッジ
主催講座(前期)リーフレット表紙】



【R4地域の人づくり講座(荒尾教室)】



【R5くまもと県民カレッジ
認定講師一覧表紙】

令和5年(2023年)3月
熊本県教育委員会

目次

はじめに	1
第1章 調査研究の概要	2
第2章 市町村の生涯学習事業の現状及び考察	3～25
第3章 県と市町村の連携事業	
1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告	26～37
【事例1】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（荒尾市）	
【事例2】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（八代市）	
【事例3】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（玉名市）	
2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告	38～43
【事例4】公民館関係者等の人材育成を目的とした講座（天草市）	
【事例5】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（人吉・球磨10市町村）	
3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告	44～47
【事例6】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（合志市）	
【事例7】生涯学習・生きがいづくりの場としての「たまり場」づくりを目的とした講座（小国町）	
第4章 学習機会提供事業	
【県民カレッジ主催講座】	48～51
① 大人の親子コース	
② 眼活コース	
③ 環境コース	
④ ボランティアコース	
【人材育成・認証制度】	52～56
第5章 先進地事例紹介	57～62
【事例1】インターネットを活用した事業	
【事例2】協働による地域づくり事業	
〔資料〕	
市町村対象アンケート調査票	63～67

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響を受け始めてから約3年が経ちました。各自治体におかれましては、それぞれの地域で住民の学びを止めないために、事業実施における感染防止対策の徹底や、ICT活用等の新しい方法を模索しながら、学習機会の提供・場の確保に御尽力いただきましたことに対して、深く感謝申し上げます。今後は、コロナ禍で獲得した新たな方法や視点を、従来のものと上手く組み合わせた新しい形で取組を進められることと思います。

令和3年3月に策定された「第3期くまもと夢への架け橋教育プラン」の生涯学習推進の取組事項として、「学習機会と学習成果活用の充実」が位置づけられています。この中では、生涯のあらゆる場面において行う学習に対して、地域課題や県民の学習ニーズに応じた学習機会、学習情報の提供に努め、さらに、学習した成果を生かして、学校、地域で地域課題の解決やまちづくりにつながる活動を推進することが求められています。

そこで、今年度、本県では、県と市町村の連携事業である「地域の人づくり講座」をはじめ、生涯学習に携わる人材の資質・能力を高めるとともに、様々な関係機関や団体とのネットワークづくりを目的とした「生涯学習コーディネーター養成講座」、広く県民一般の方への学習機会の提供のための「くまもと県民カレッジ主催講座」等、様々な講座を実施して参りました。

本調査研究報告書では、市町村の生涯学習に係る現状をはじめ、県と市町村の連携事業（地域の人づくり講座）、県民カレッジ主催講座、人材育成・認証制度、県内外におけるまちづくり・人づくりの先進事例、等についてまとめました。

本調査研究報告書が、各市町村等において活用され、生涯学習・社会教育に係る取組が尚一層充実するための一助となれば幸いです。

最後に、調査に御協力いただきました市町村教育委員会及び県内外関係者の皆様方から感謝申し上げます。

令和5年（2023年）3月

熊本県教育庁市町村教育局社会教育課長

三角 登志美

第1章 調査研究の概要

1 調査の目的

(1) 市町村支援

市町村における学習機会提供事業の充実等、生涯学習振興の支援のため、地域課題解決に向けた学習プログラムの開発及び県内外の先進事例の情報収集を行い、市町村教育委員会をはじめとする関係機関に提供するとともに、次年度の事業に活用する。

(2) 市町村基礎情報収集

生涯学習推進及び社会教育行政に必要な基本的情報を収集し、社会教育課事業の基礎資料とする。

2 調査の対象

県内全市町村教育委員会（社会教育・生涯学習担当課：45市町村）、熊本市公立公民館（19館）、及び、他県の公民館等（2県：2か所）

3 調査の実施期日

令和4年（2022年）11月17日～令和5年（2023年）1月11日

4 調査内容及び方法

(1) 県内市町村教育委員会、熊本市公立公民館に、次の点についてアンケートを依頼

- 主催事業について
- 学習成果活用を目的とした事業について
- 生涯学習全般について

(2) 「インターネット活用事業」「協働による地域づくり事業」を行っている他県の公民館等に、取組の紹介を依頼

【福岡県北九州市】

北九州市立日明市民センター 「インターネット活用事業について」

【山口県山口市】

山口市吉敷地域交流センター 「協働による地域づくり事業について」

5 県内市町村・熊本市公立公民館調査回収率

対 象	依頼市町村数	回収市町村数	回収率 (%)
市（教育委員会）	14	14	100
町（教育委員会）	23	23	100
村（教育委員会）	8	8	100
熊本市公立公民館	19	19	100
全 体	64	64	100

第2章 市町村の生涯学習事業の現状

市町村の生涯学習に関する現状を把握するために、住民を対象とした講座内容や講座の実施回数、講座終了後の評価等について県内各市町村へアンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。(数字は単位記載のものを除き市町村数)

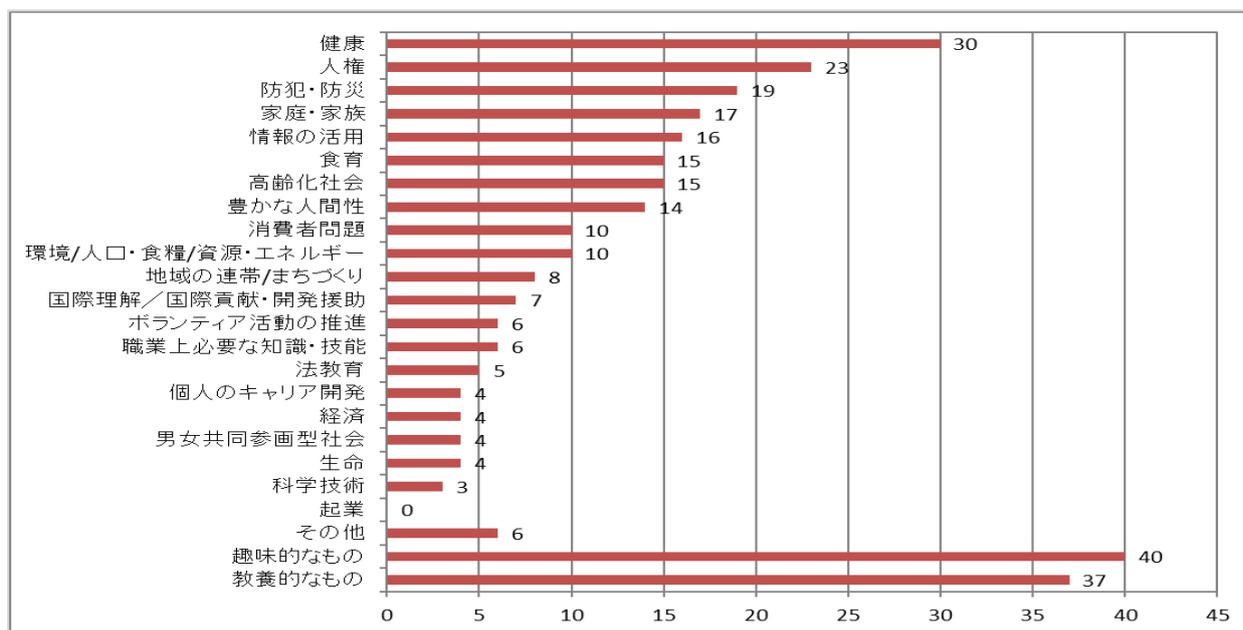
問1 本年度、貴市町村の教育委員会（公民館等も含む）主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。（予定も含む）

【表1：各市町村における講座の実施の有無】

	H31(令和元)	令和2	令和3	令和4
実施した	45	36	43	45
実施していない	0	9	2	0

本年度は、県内全ての市町村で講座を実施した。新型コロナウイルス感染症に対する理解や感染防止対策等の徹底により、コロナ以前の状況に戻りつつある。

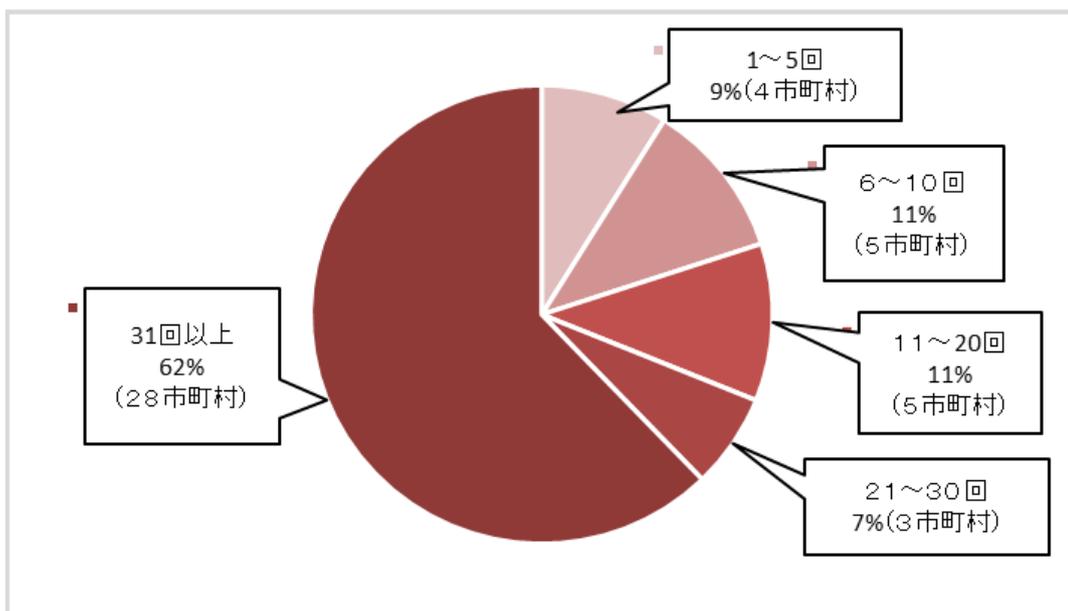
問2（1）本年度実施した（予定）講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕



学習領域は、「健康」が一番多く、次いで「人権」「防犯・防災」「家庭・家族」「情報の活用」の順である。「防犯・防災」については、昨年度11市町村で実施であったが、本年度は19市町村で実施されている。また、昨年度に比べ、「健康」「高齢化社会」「教養的なもの」を実施した市町村が増加している。

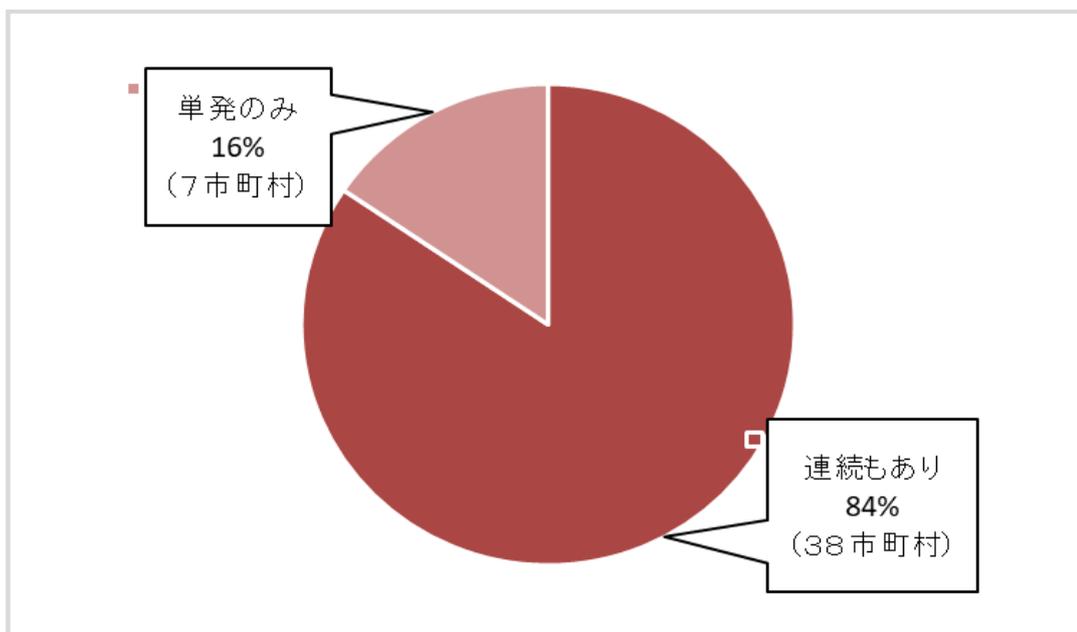
その他の領域としては、「地域の人材育成」「世界遺産教育」「日本語教室」など地域の特性やニーズに応じた講座が実施されている。

(2) (1) の講座等の合計実施回数を選んでください（予定も含む）。



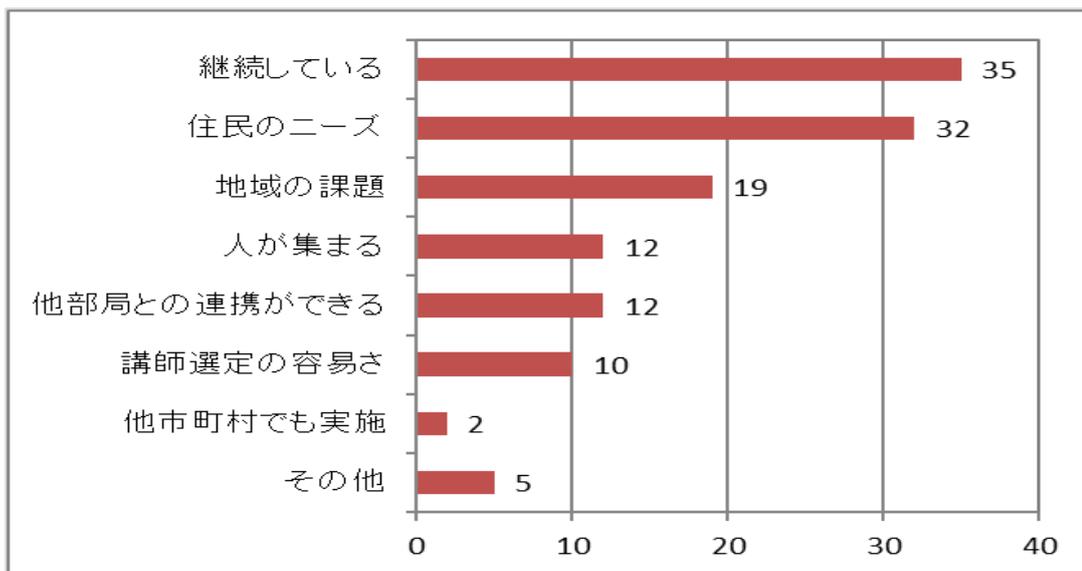
年間実施回数は、「31回以上」が28市町村（62%）と一番多く、次いで「11回～20回」「6～10回」、「1～5回」、「21回～30回」の順である。昨年度と比べると「31回以上」は6%増、「21回～30回」は5%増、「6～10回」は増減なし、「11～20回」は1%減、「1回～5回」は3%減であり、実施回数が年間31回以上という市町村が6割を超えている。

(3) (1) の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。



実施形態は、「連続した講座」が38市町村（84%）、「単発のみの講座」が7市町村（16%）である。昨年度と比較すると、「単発のみの講座」が3%減少、「連続した講座」が3%増加している。

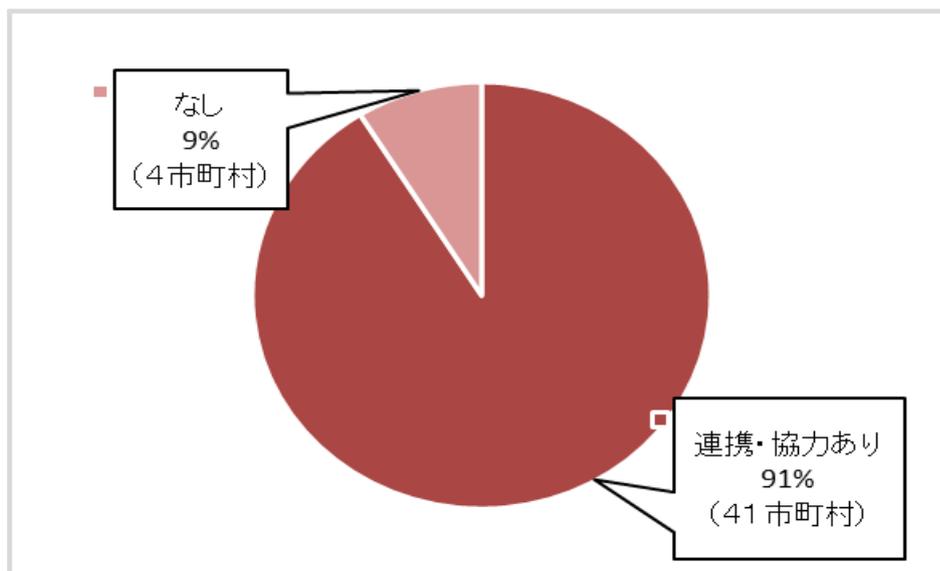
(4) (1) の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕



学習領域選定の理由は、昨年度同様、「継続しているから」「住民のニーズが高いから」「地域の課題だから」「人が集まるから」の順である。昨年度に比べ、「他部局との連携ができるから」が3市町村増加している。

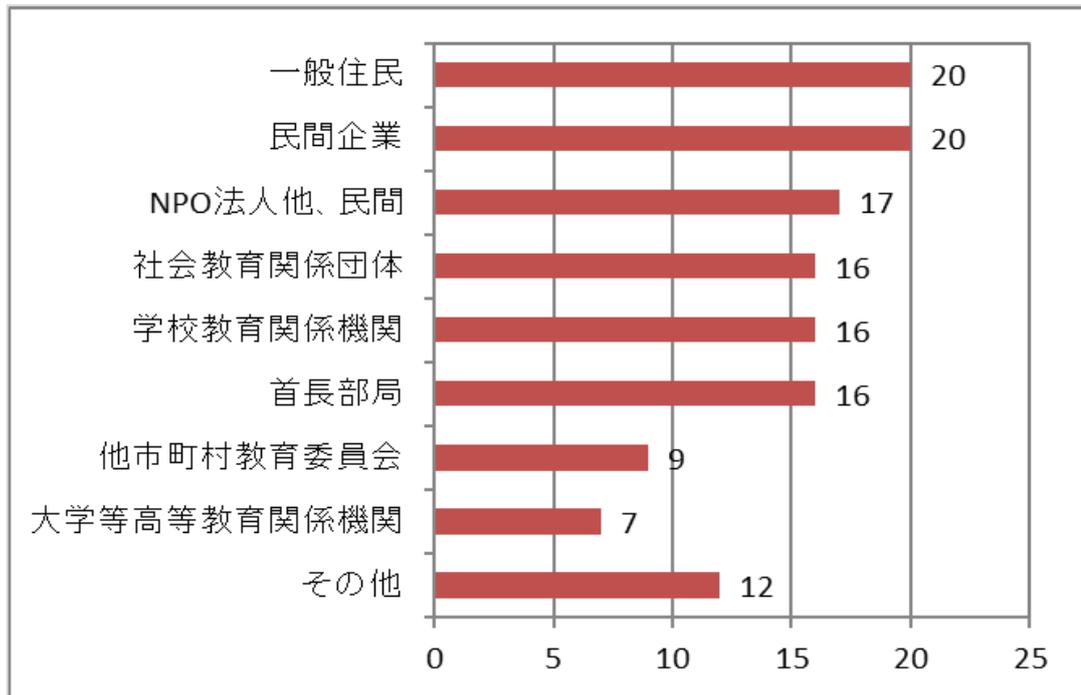
その他の理由としては、「自治体の取組目標に関するもの」「連携協定を結んだ企業等からの要請」「地域外への発信」等が挙げられている。

(5) (1) の講座を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関（構成員を含む）がありますか。



「連携・協力」を行った市町村は、41市町村（91%）であった。昨年度比で3%増加した。連携・協力を進めている市町村が増えていることがわかる。

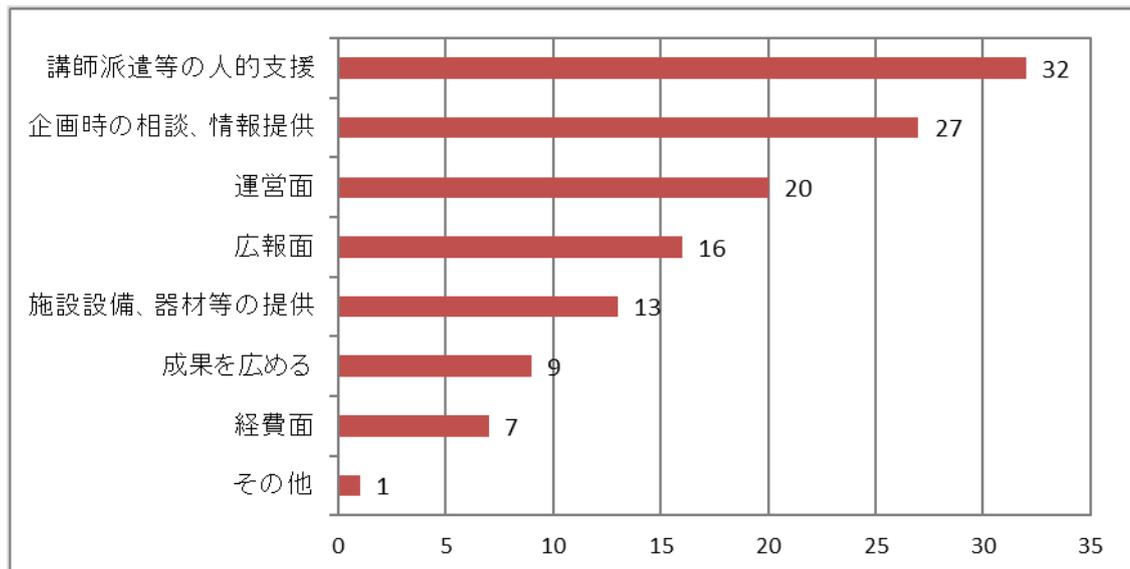
また、連携先は、どのような機関ですか。〔複数回答可〕



講座実施の連携先としては、「一般住民」「民間企業」「NPO法人他、民間団体」が上位である。昨年度は、7番目であった「社会教育関係団体」が7市町村増で、4番目に上昇している。多くの機関と連携、協力して講座が実施されていることがわかる。

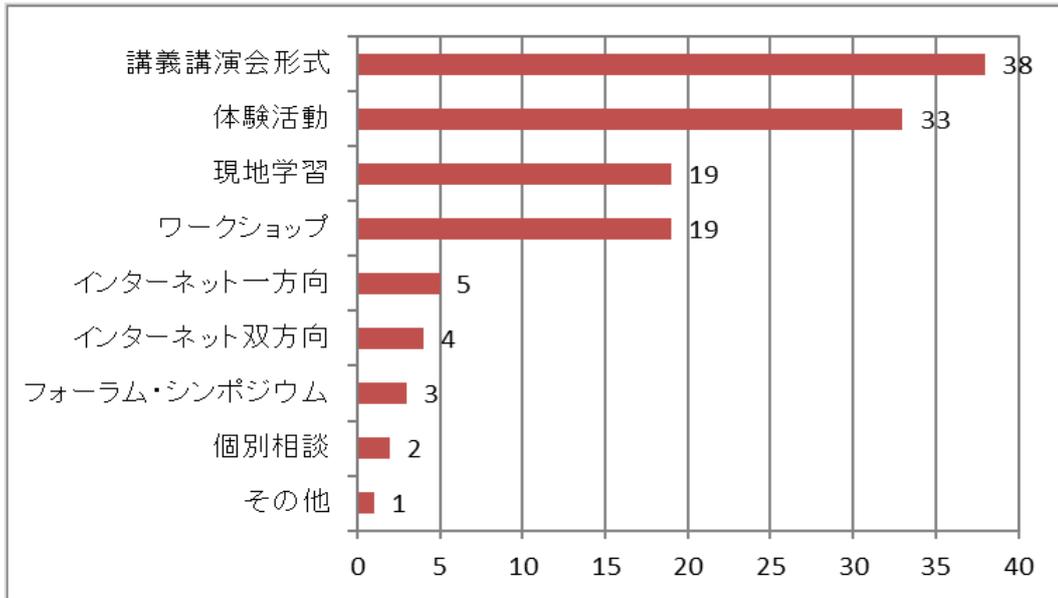
その他の連携先としては、「保護司会」「法務局」「警察」「県庁等公的機関」などが挙げられている。

(6) (5) の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕



連携内容や場面については、「講師派遣等の人的支援」「企画時の相談、情報提供」「運営面」が上位である。企画の段階から関係機関と連携している市町村が多いことがわかる。

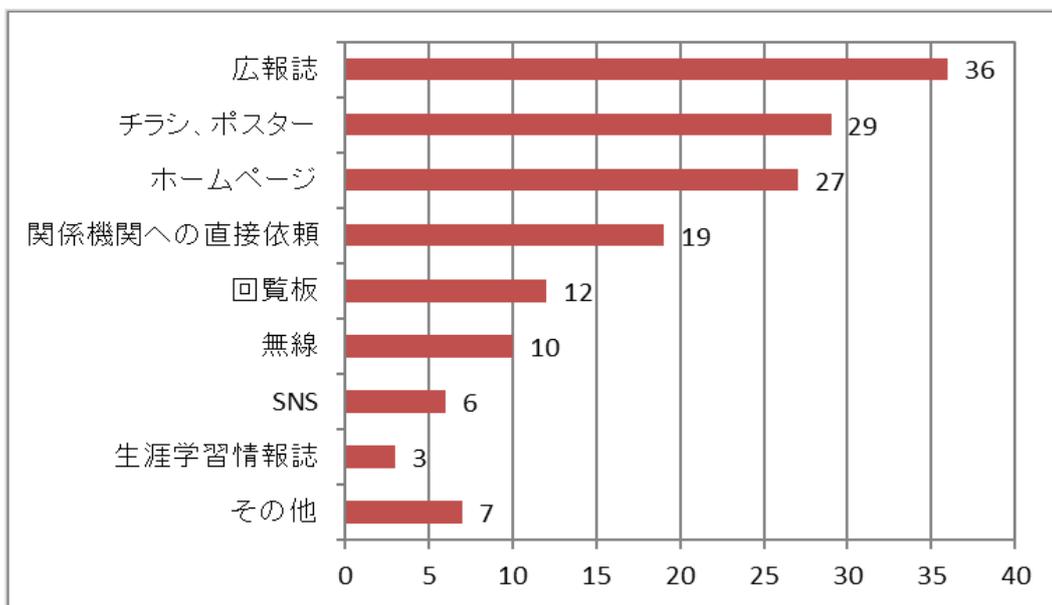
(7) (1) の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕



学習形態は、「講義・講演会形式」「体験活動」「現地学習」と「ワークショップ」の順である。昨年度と比較すると、「体験活動」「ワークショップ」が増加傾向にある。対面形式の講座が再開された後も「インターネット」活用を継続している市町村がある。

その他としては、「ケーブルテレビによる講話」が挙げられている。

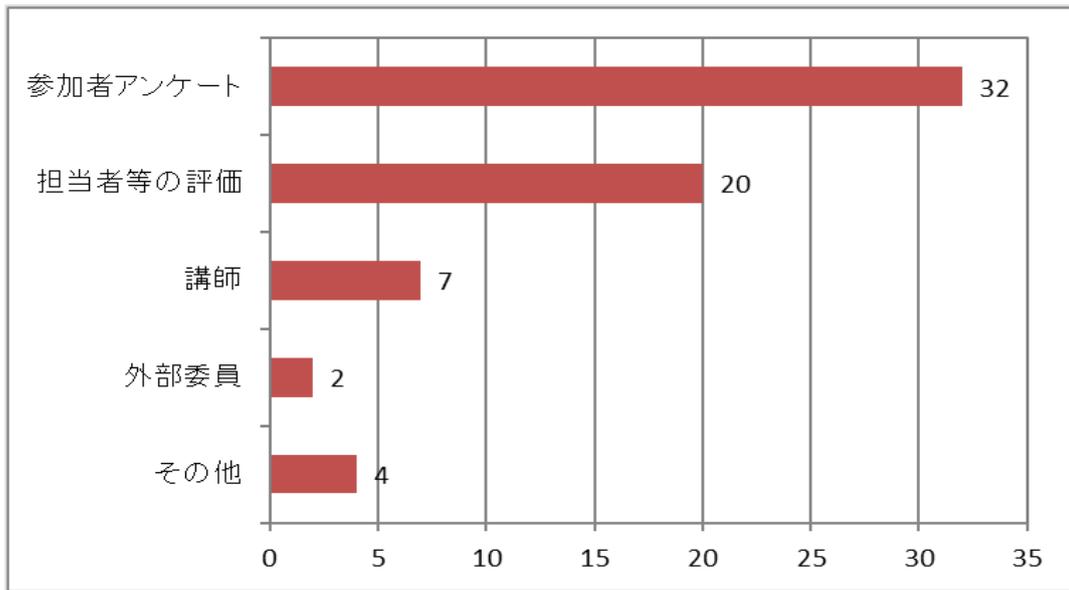
(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕



講座の広報手段は、「広報誌掲載」「チラシ、ポスター配布」「ホームページ掲載」「関係機関への直接依頼」が多い。昨年度と比較すると、「広報誌掲載」「ホームページ掲載」が3市町村増加している。

その他の方法としては、「自治公民館掲示板の活用」「町内放送」「ラジオ放送」等の手段が挙げられている。

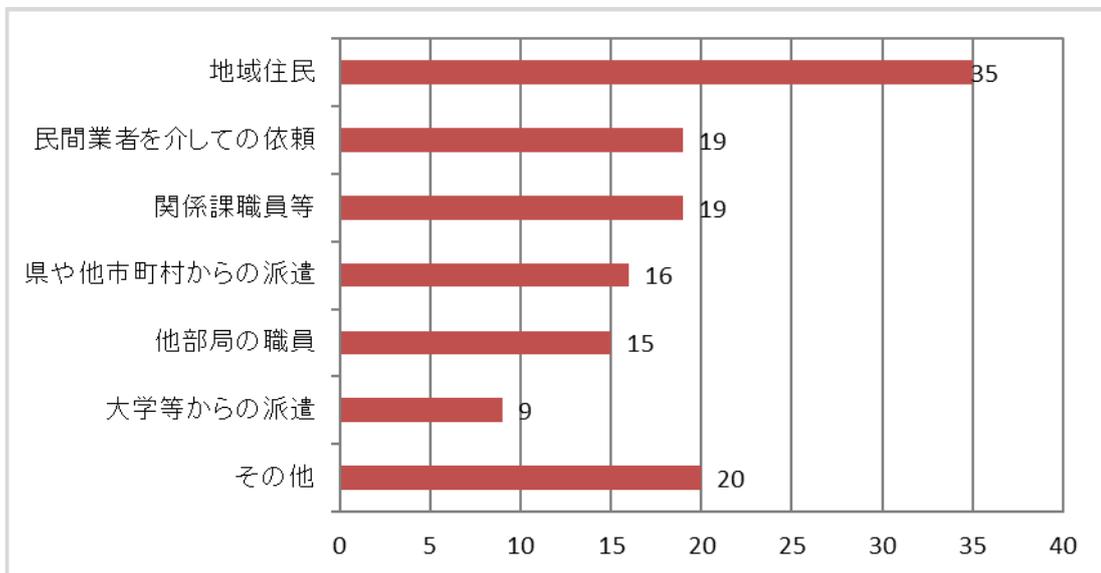
(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕



講座の評価方法については、9割の市町村が何らかの形で講座評価を行っており、昨年同様、「アンケート」による評価が最も多い。

その他としては、「関係役員の会合における評価」「聞き取り」等が挙げられている。

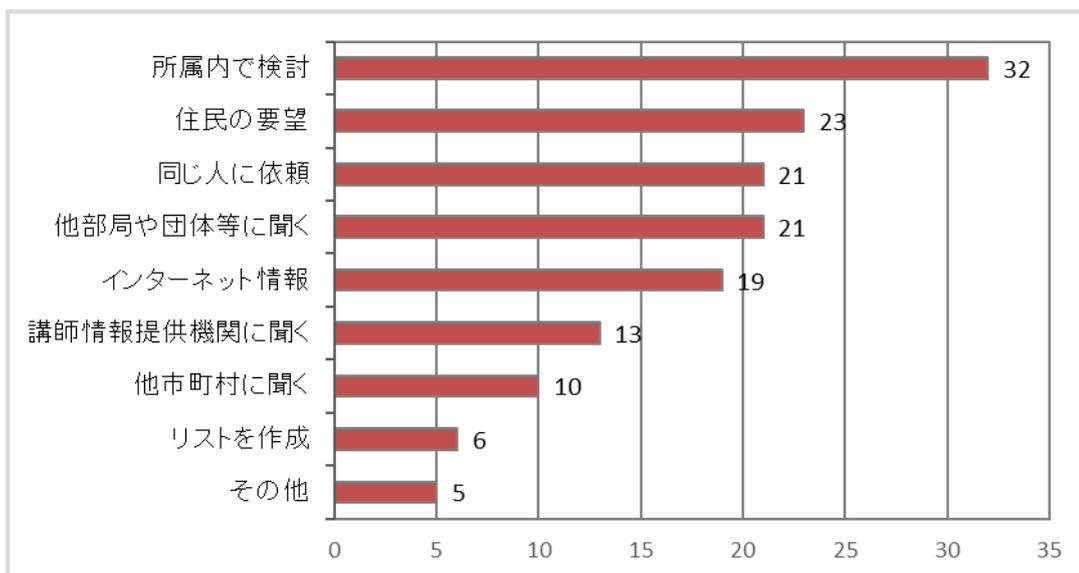
(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕



講座を務めた講師は、「地域住民」「民間業者を介しての依頼」と「関係課職員等」の順である。昨年度と比べ「その他」が8市町村増加している。

その他としては、「高校生や学生」「医療関係者」「NPO法人」「手話通訳者」等が挙げられており、多様な連携が図られている。

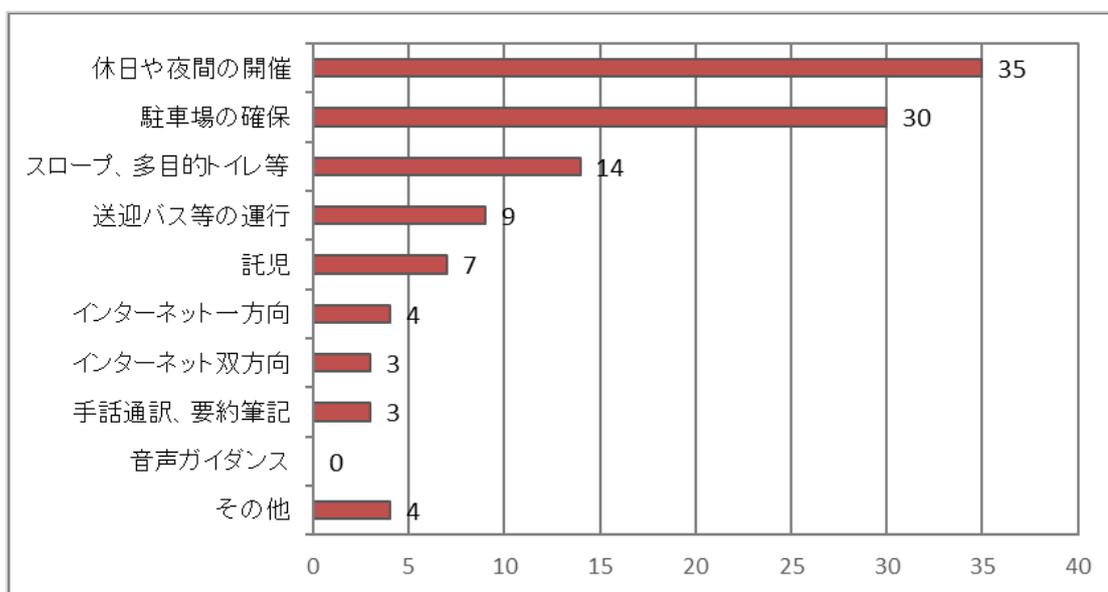
(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕



講師の情報源は、昨年同様「所属内で検討」「住民の要望」「同じ人に依頼」と「他部局や団体等に聞く」の順である。

その他としては、「担当者のネットワーク」「生涯学習情報誌」「専門家の意見をもとに」等が挙げられている。

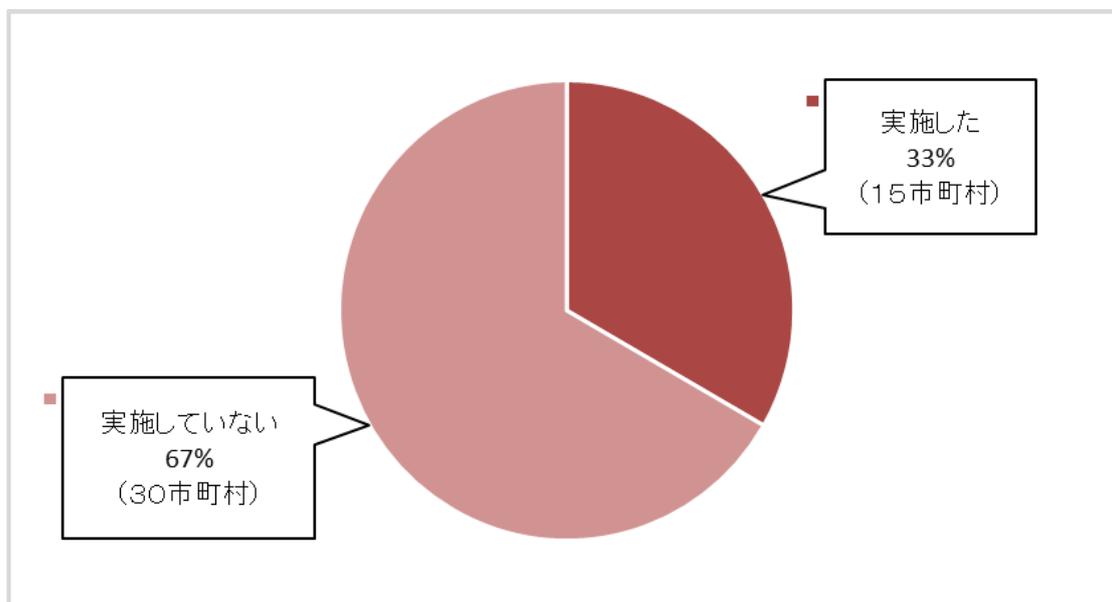
(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕



住民が参加しやすいように、「休日や夜間の開催」「駐車場の確保」「スロープ、多目的トイレの設置」等の支援が行われている。

その他としては、「電子申請サービスでの参加申込」「アウトリーチ形式での講座実施」「参加者が希望する時間帯の開催」等が挙げられている。

問3 学習成果活用を視野に入れた講座（人材育成や仲間づくり、仕組みづくり等）を実施しましたか（予定も含む）。



学習成果活用を視野に入れた講座を「実施した」市町村の割合は、15市町村（33%）である。昨年度と比較すると2%増加している。

次の表に示すのは、学習成果活用を視野に入れた講座の具体例である（回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す）。

市町村等	講座名	内 容
八代市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3／3年目。
	やつしろ市民大学	IT キャリアアップ、防災、スマホの使い方等、実用的な内容の講座。
人吉市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
荒尾市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3／3年目。
	スマートフォン教室	市DX推進計画に基づき、スマートフォンの操作について学ぶ連続講座。
玉名市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。3／3年目。
天草市	地域の人づくり講座	県と共催する公民館関係者の育成講座。2／3年目。
	一人ひとりがSDGs～もったいないからはじめよう～inここらす	SDGsの考えをもとに、環境に関する事業に携わっている部局及び団体・一般市民とボランティア（高校生）による講座。

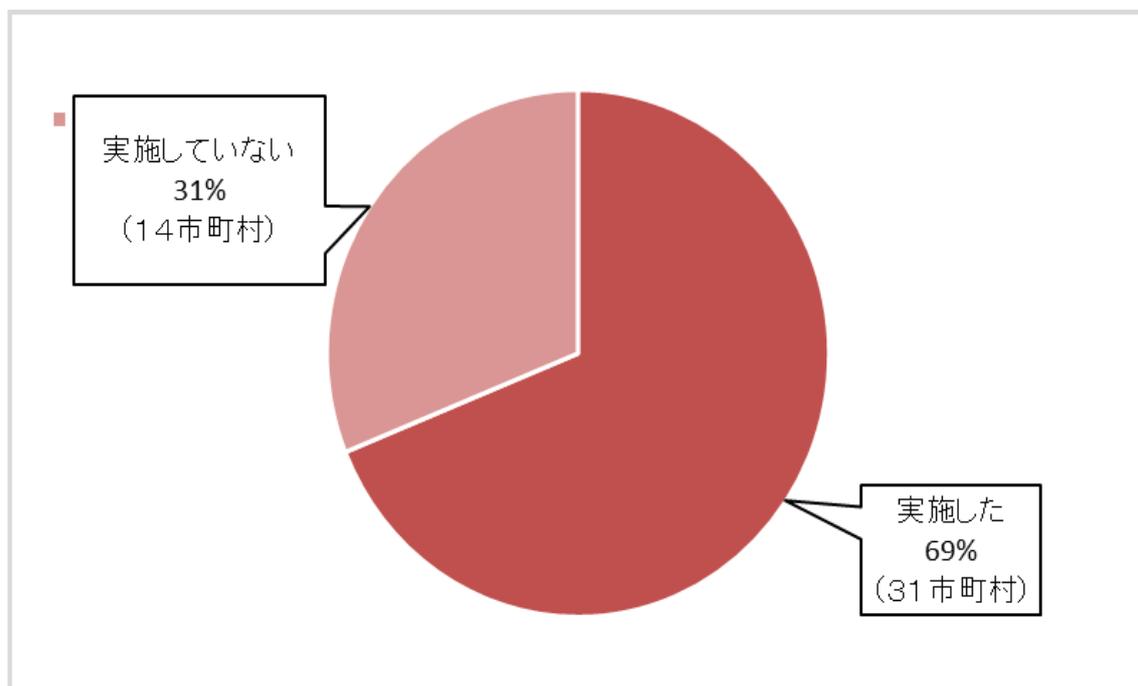
天草市	読み聞かせボランティア講座	読み聞かせボランティアのスキルアップや交流のため、活動に必要な内容を定期的に学ぶ講座。
菊池市	キクロスカレッジ	地域人材の育成、マイスター認証登録及び活用のための講座。
	古文書整理ボランティア養成講座	古文書整理の基礎知識を学び、ボランティア活動につなげる講座。
宇土市	ボランティア養成講座	地域学校協働活動推進事業のボランティア養成を目的とした講座。園芸技術に関する実技と読み聞かせに関する講話を実施。
宇城市	もっと知りたい三角西港	宇城市内の教職員を対象に、地域の観光ガイドが講師となり世界遺産である三角西港について学ぶ講座。
合志市	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。1／3年目。
	プロから学ぶはじめての似顔絵講座	プロの似顔絵アーティストの方から、似顔絵の描き方について楽しく学ぶ講座。
長洲町	多肉植物講座	多肉植物の寄せ植えについての学びや共同体験をとおして、受講生同士のつながりや自主講座へ発展を生み出す講座。
菊陽町	ジュニアリーダー養成講座	小5から高校生を対象とした、学校や地域のリーダーとして活躍できる人材を育成する講座。
	学生ボランティア養成講座	主催講座運営の補助など、参加する小中学生のリーダーとして活躍できる人材を育成する講座。
小国町	地域の人づくり講座	県と共催する地域の連帯やまちづくりに参画する人材の育成講座。1／3年目。
嘉島町	読み聞かせ講座	読み聞かせの基本やコツを学ぶ講座。
益城町	ふるさと学芸員	町の偉人「四賢婦人」について学び、修了者は「ふるさと学芸員」に登録及び「四賢婦人記念館案内人」として活動するための講座。
氷川町	ふれあい大学	高齢者が豊かに社会生活と積極的な生きがいを求めるため、自発的意志に基づいて学習する講座。
錦町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
あさぎり町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
多良木町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。

湯前町	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
水上村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
相良村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
五木村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
山江村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
球磨村	地域の人づくり講座	県と共催する地域学校協働活動推進員等の育成講座。2／3年目。
苓北町	苓北町スマホ教室	スマートフォンの操作について学ぶとともに、指導者養成講座を兼ねて実施する講座。
西部 公民館	PC・スマホよろず 相談	以前、当公民館で行われた「ITボランティア養成講座」受講生が、継続してボランティア講師として活動している講座。
南部 公民館	手話入門	初心者から手話通訳へとつなげる入門講座及びステップアップ講座。
	傾聴ボランティア養 成講座	傾聴の理論や手法について学び、施設等のカウンセリングといった様々な場面で活躍できるように学ぶ講座。
	大学生チャレンジ 南部公民館	大学生がテーマを企画し、公民館や民間企業の協力を得ながら、開催に向けての準備や広報、当日運営までを行う講座。
龍田 公民館	心に寄り添う傾聴 講座	傾聴について基本的な技法を学ぶ講座。
幸田 公民館	小学生への 絵手紙教室	公民館で月2回学習している受講生が、地域の小学生に絵手紙体験として絵手紙教室を行う講座。
秋津 公民館	男のパン作りと趣味 と地域貢献	パン作りをしながら、趣味や特技を地域貢献に生かしている講師の話聞き、自分にできる地域貢献の可能性を探る講座。
	小学生生け花教室	自主講座の生け花講座の受講生が、小学生への指導補助を行う。
清水 公民館	おはなし会	絵本の読み聞かせについて学ぶ講座。
大江 公民館	こどもチャレンジ公 民館	小学生がプランナー、大学生がプランナーのサポートをし、地域の小学生を対象に出店形式で企画運営する講座。

花園 公民館	ウクレレミーティング	自由参加形式の講座で、集まった人たちが互いに教えあいながら、仲間づくりと地域での演奏会やワークショップの実施につなげる講座。
北部 公民館	北部窓ふき隊	北部地域のボランティア団体と連携して、近隣の老人施設の窓ふきを中心にボランティア養成に視点を置いた活動を行う講座。
飽田 公民館	超高齢化社会に備えよう！	自分や家族の高齢化、相談窓口の紹介・自立支援・介護制度について学び、参加者同士で課題の共有や解決策の情報を得て、超高齢化社会に備えるための講座。
河内 公民館	おでかけ公民館講座	地域グループの仲間づくりや人材育成を目的とした講座。
富合 公民館	布絵本づくり	布の絵本作り講座の受講生が、子どもたちにフェルトマスコット作り（裁縫）を教える。
城南 公民館	傾聴ボランティア養成講座	傾聴についての知識やスキルを学習し、傾聴ボランティアとして活動する人材を育成する連続講座。
植木 公民館	植木の史跡・名所の歴史を学べ（ボランティア養成講座）	植木の史跡・名所についての学習をとおして、植木の良さを再発見するとともに、将来は植木の史跡・名所案内のボランティア活動等を行う講座。

回答状況から、地域で活躍する人材の育成やつながりづくりを視野に入れた講座を実施している市町村及び公民館が数多く見られた。

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか（予定も含む）。



昨年度と比較すると、実施した市町村が13%増加しており、コロナ前の状況に戻つつある。

次は、実施した市町村の事業例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	事業名	内 容
八代市	キッズチャレンジ 2022	アウトドアスクール、夏休み子ども陶芸教室、八童天文台に泊まろう、親子で楽しもう里山体験を実施。
人吉市	校区公民館子ども講座	体操、ダンス、将棋、囲碁、そろばん、お菓子作り、大正琴、折り紙を実施。
荒尾市	洋菓子作り料理教室	親子参加型の洋菓子作り教室(料理教室)を実施。
水俣市	みなまたヒューマンライツ・セミナー(中学生コース)	水俣病資料館訪問や菊池恵楓園歴史資料館訪問による人権についての学習機会を提供。
	童話教室	子供たちに童話を聞くことや話すことの楽しさをもっと知ってもらうように、毎月、テーマを決めて実施。
玉名市	防災×火起こし	外での火起こし体験(原体験の機会)・ポリ袋炊飯(炊き出し体験)を実施。
	読書感想文の書き方講座	読書感想文の書き方について学び、感じたことや思ったことを表現する方法を身につけ、読書意欲の向上を図る。
	点字でオリジナル名刺をつくろう 他 21 件	点字の仕組みを学び、実際に点字をうつこと体験を通して、バリアフリーについて知る場を提供する。
天草市	手話講座	手話カレンダーをもとに、親子で簡単な手話を当事者から学ぶ。
	ペアペアお茶碗をつくろう	親子でお茶碗をつくる。
	ちょっといい『お金』のはなし	県・金融広報アドバイザーを講師として、小学生を対象にお金について考える(貯金箱作りも実施予定)。
菊池市	キッズチャレンジクラブ 2022	菊池の歴史・伝統・文化・名所・旧跡等について学習し、郷土理解を深めることにより、地域に誇りを持ち、郷土愛を育む。
	ビブリオトーク	小学校3～6年生を対象にしたビブリオトークの実施。
宇土市	地域教育力活性化事業	農作物の苗植えや収穫、昔遊びや工作等を通じ、地域住民や異なる学年の児童と活動を共に行うことを通じて、情操の形成や郷土愛を育むことを図る。
宇城市	子どもの楽校	子供たちがさまざまな体験活動を経験しながら、地域の人たちとの交流を図り、豊かな人間性やたくましく生きる力を育む。
	夏休み親子講座	夏休みに、絵手紙、レザークラフト作り、水鉄砲作りを実施。
合志市	夏休み体験教室	子供のみを対象とし、世界に一つだけの陶芸作品を作り上げる。
	親子体験教室	科学実験やパン作り、将棋など全 2 回を実施。

美里町	英会話教室	全世代を対象とし、誰でも気軽に参加できるレベルで実施。
玉東町	通学合宿	小学6年生を対象に、親元を離れ2泊3日で町公民館に泊まり込み、集団生活を行いながら学校に通うことで、協調性を養い自立を促す。
長洲町	夏の親子星空観察会	夏休みの思い出作りとして、親子での観察会を開催し、子供たちの星や星座についての興味関心を高める。
大津町	木育教室	高校生を講師とした木育教室を実施。
	キッズ英会話	小学生を対象とした英会話教室を実施。
菊陽町	青少年育成事業など	みそ作り、図書館お泊り探検隊、世界に一つだけのペンダントを作ろう！～SDGs～、星空観望会～私たちが住む町の夜空を見上げよう～ などを実施。
産山村	産山村人権集会	学校児童生徒等を対象として、人権作文の発表、人権メッセージ優秀者の表彰、権に関するDVDの視聴等を実施。(集会の様子を後日動画配信)
高森町	コロナ禍での人権教育講座	感染者やその周囲の家族などへの人権意識の醸成を目的とした講座。
御船町	県立劇場ネットワーク事業 (絵本deクラシック)	0歳から楽しめるクラシックコンサートを実施。
益城町	どんぐりとニュースポーツ	親子でどんぐりを使ったものづくりや、ニュースポーツを楽しむ講座。
甲佐町	子ども講座	放課後児童クラブで、ビニール傘袋を使った工作などを実施。
山都町	子ども茶道教室	夏休み期間中に、小学生と中学生を対象とした茶道教室を実施。
氷川町	子ども人権教室	子どもたち一人一人の人権意識を高め、自分自身を大切にする自尊感情を高められるようにする教室。
芦北町	子ども講座	小学生を対象として、土曜日や夏休み期間に、異年齢及び地域間交流ができる学習活動として、茶道とそろばん講座を実施。
津奈木町	つなぎ遊びの学校	町内の小・中学生を対象に、様々な体験活動等の場を提供する。
錦町	English day camp in Nishik	小学3～6年生を対象に、ALT4人を講師として外国語について学ぶ活動を実施。
湯前町	英会話教室	学校ALTによる英語の学習教室。

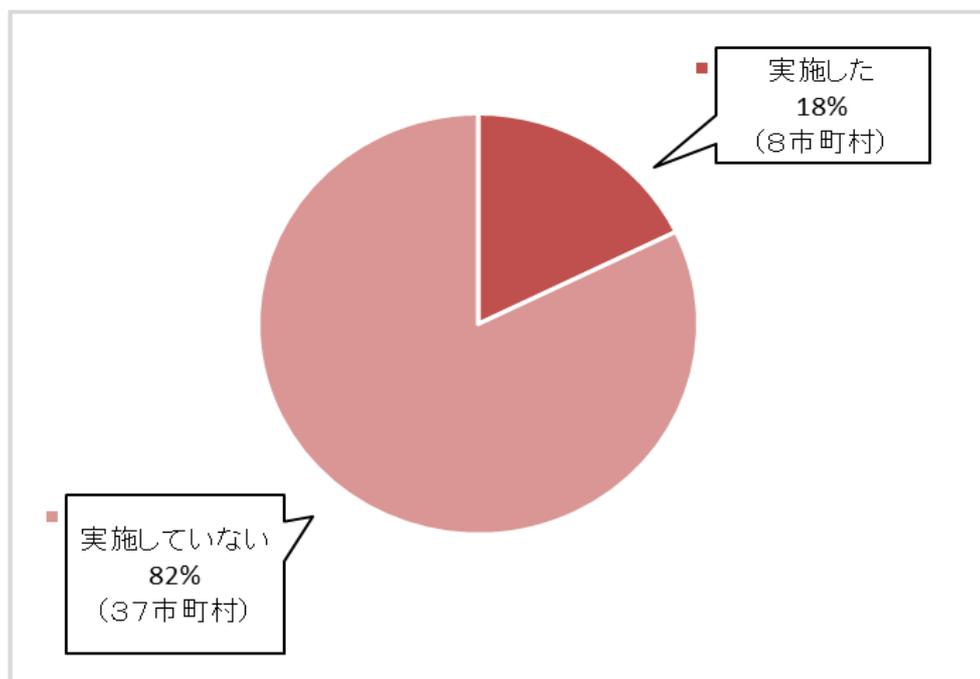
相良村	英会話教室	ALTを講師として、学校毎、2学年毎に1時間の英会話教室を週5回実施。
五木村	英語チャレンジ教室	村内在住の親子を対象に、ALTを講師として英語学習にチャレンジする教室。
山江村	わいわい公民館	和太鼓演奏の鑑賞と演奏体験を実施。
中央 公民館	科学工作ものづくり教室	小学生を対象に、科学のしくみをいかした科学工作ものづくりや科学遊びを通し、楽しさや、おもしろさに触れる教室。
五福 公民館	ごふくキッズ天体観測クラブ	小学4～6年生を対象にした街中でもできる天体観測クラブ。望遠鏡の使い方を体験的に学ぶとともに、天体観測に親しむ。
	ごふくキッズ図工の時間	小学1～3年生を対象にした表現活動。普段学校ではできないダイナミックな造形活動や初めての水彩画等にチャレンジする。
西部 公民館	親子で和菓子作り など	親子のより良い体験となるように、一緒にできる様々な体験活動を実施。
南部 公民館	キッズダンス	小学生を対象にしたダンス講座。
	キッズそろばん	小学生を対象にしたそろばんの技能を習得する講座。
	BSI×FAMILY	小学生高学年以上を対象にした防災講座。
東部 公民館	親子ものづくり・動くおもちゃを作ろう	手作りのおもちゃ作りを通して、ものづくりの楽しさを知るとともに、親子のふれあいの機会をつくる講座。
龍田 公民館	世界でひとつの龍田ダンス	小学生を対象にした創作ダンスを実施。
託麻 公民館	子どもチャレンジ公民館	子供たちが企画・運営し、公民館職員の力を借りながらやってみたいことを具体的な活動として実現させる。
幸田 公民館	子どもチャレンジ公民館	1年間活動できる子供プランナーを募集し、カヌー乗船体験、秋祭り、冬山登山体験の企画、運営に携わる。管内の小学生を広く募集して、学校休業日(主に、土、日曜を利用して)に実施。
清水 公民館	子どもお琴	子供を対象に、琴の練習や演奏を実施。
	子ども生け花	子供を対象に、生け花を実施。
大江 公民館	キッズ体幹トレーニング教室	小学生を対象に、ストレッチ体操や歩行の仕方などを中心に体幹をトレーニングする講座。
花園 公民館	お出かけ公民館「大好き花園」	小学校の総合的な学習の時間とリンクし、地元のゲストティーチャーから地域の歴史について学ぶ。地域の高齢者と顔見知りになること、歴史を知る事を通して地域に愛着を持つことを目指した。

北部 公民館	ほくぶキッズ遊学塾	応募してきた北部公民館エリアに在住の小学3～6年生14人を対象に、子供たちがやりたいことをもとに計画を立て、ものづくりや博物館見学等の体験活動を中心に行う講座。
飽田 公民館	マット鉄棒講座・夏休み絵画ポスター講座	小学生を対象に、マットや鉄棒等の運動を行ったり、夏休みにポスターを描いたりする講座。
	プログラミング講座・科学体験講座	飽田地域の3小学校児童を対象に、親子による体験活動の実施。
	Zoom おはなし会	飽田地域読み聞かせボランティアにより、就学前の幼児と保護者を対象に Zoom 配信によるおはなし会を実施。
河内 公民館	夏休み応援企画 など	絵を描こう、川の水生生物調べ、開放自主学习室等を実施。
天明 公民館	親子リトミック	乳幼児を対象とし、親子で音楽に合わせて体を動かす。
富合 公民館	子ども舞踊、キッズ体操、キッズイングリッシュ 等	子ども舞踊・キッズ体操・キッズイングリッシュ・夏休み書道教室・夏休み絵画教室・子ども生け花・キッズダンス・子ども硬筆・姿勢改善
城南 公民館	はじめてのキッズダンス	小学生を対象とし、全10回にわたってヒップホップダンスを練習し、生涯学習の発表会で発表する。
植木 公民館	お助け！夏休みの宿題・絵の部	小学生を対象に、この講座で絵を描きあげる。特に、北区主催「ゴッホを探せ」への出品に向けて、北区シンボルフラワーである「ひまわり」を題材に取り上げて描く活動とする。

それぞれの地域にある資源や人材の活用、民間企業等と連携した講座が多く企画されている。講座内容としては、体験活動、ものづくり、ダンスや運動、リーダー育成など、工夫をこらしたプログラムが企画されている。また、親子で参加する講座や子供たち自身が企画・運営する講座が見られた。

問5 様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施しましたか。

【新規】



様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施した市町村が、8市町村ある。平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障がい者の生涯学習機会の整備・充実が求められていることから、障がいの有無にかかわらず誰もが参加でき、共に学ぶ場の提供が必要である。

次は、実施した市町村の事業例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	内容
天草市	手話講座や、「すべての人に読書の喜び・楽しみ」を感じてもらうため、読書補助用具「リーディングトラッカー作り」やマルチメディアデジジー図書をタブレットで体験する講座を実施。
菊池市	手話教室を実施し、手話で日常会話ができる優しいまちづくりを目指す。
宇城市	手話講座を実施。
合志市	「eスポーツがつくるごちゃまぜの世界～障がい、性別、年齢を超えて楽しもう」講座を実施。重度障がい者の就労支援。
玉東町	小学生を対象に、車いすバスケット体験や視覚・聴覚障害・肢体不自由についての学習会を実施。
多良木町	手話講座を実施。
中央公民館	職場研修を実施。人権啓発全般及び障がい者への窓口対応について学ぶ研修を実施。
五福公民館	手話講座を実施。難聴の当事者を講師に迎え、受講生の交流も図る。

西部公民館	ポッチャ体験講座を実施。障害のあるなしに関わらず楽しめる活動を行う。
南部公民館	手話講座を実施。視覚障害のある方も含めた手話入門講座として行う。
龍田公民館	手話講座を実施。視覚障がいに関する理解と支援について学ぶ入門講座を行う。
幸田公民館	「はじめての手話講座」を実施。平日の夜(17時～21時)に、8回連続講座として行う。
秋津公民館	障がい者サポーター養成講座を実施。
清水公民館	人権講演会を実施。
大江公民館	「はじめての手話講座」を6回連続講座で実施。受講生の中には、自分の名前や趣味など自己紹介ができるようになるまで手話を習得された方や認定試験を受けられる方もおられた。
花園公民館	障がい者サポーター研修を実施予定。
北部公民館	ハンセン病・水俣病についての学習や、全盲のシンガーソングライターのコンサート等を実施。
河内公民館	認知症サポーター養成講座を実施。
城南公民館	弱視の方の見え方や困り感などの理解を深めるとともに、必要な支援について考える講座を実施。
植木公民館	熊本市北区公設公民館合同人権教育講演会を実施。(盲目のシンガーソングライターによる弾き語り)心優しい豊かな社会を創っていくための、人権意識を高める学びを実施。

回答状況から、視覚障がいの理解や支援方法、手話について学ぶ講座を実施している市町村が多いこと、障がいのあるなしに関わらず共に学んだり、体験したりする講座が実施されていることがわかる。

問6 今年度実施した(または実施予定の)事業における工夫や取組について1つ御記入ください。【新規】

次は、記入のあった市町村の工夫や取組事例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	工夫・取組
八代市	リカレント教育の取組(ITキャリアアップ講座・金融リテラシー講座等) デジタル社会に向けた取組(かんたんスマホ講座・プログラミング教室等)
人吉市	令和2年7月豪雨災害の影響により、校区公民館(2施設)が被災し、現在、災害復旧工事のため使用できない状況である。被災した施設の校区公民館講座を実施するために、地域の自治公民館及び学校施設などを会場として講座を実施。特に、子ども講座については、全ての校区で開催することができ、市内全域の子ども達へ学習する機会を確保することに繋がった。

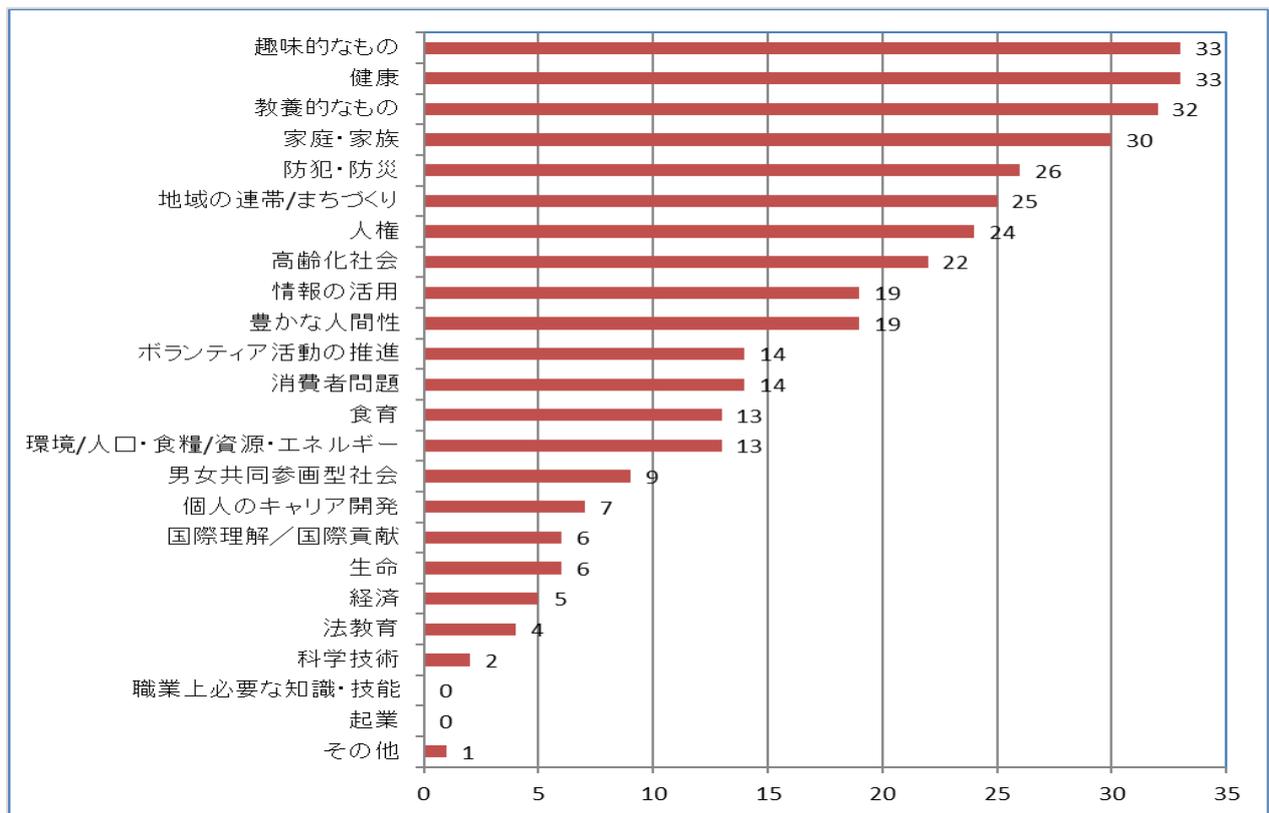
荒尾市	地域防災についての講話、高齢者詐欺防止講話、いざという時の応急措置講話など、生活に必要な講座を実施。
水俣市	教養講座について、時間帯に応じて参加できるよう、平日の夜と土曜日の午前中に分けて開催。(公民館)
玉名市	作業療法士や医師が所属する社会教育団体と連携し、精神科勤務の医師や大学教授、当事者を講師に招き、精神疾患に関する基礎知識や予防法、家族との関わり方などを学ぶ講座を実施。
山鹿市	スマートフォンの使い方講座を実施し、市の情報発信アプリの利活用等をすすめた。
菊池市	「いつでも、どこでも学べる講座」をテーマに、多忙な子育て世代に届ける「子育て講座の動画配信」を実施。SDGs プラなし月間活動の取組。
宇土市	世代間の交流や繋がりが希薄になってきている中、e-スポーツ講座や成人対象の講座を開催することにより、児童と高齢者が触れ合う機会をつくることができた。
宇城市	デジタル社会に対応するため、初心者スマホ講座の実施。
合志市	TSMC関連に伴い、台湾料理教室を開講。多国籍料理や外国語教室(韓国語・英会話)等は、外国の文化や生活に触れることができとても人気のある講座であり、多くの応募があった。
美里町	検温・手指消毒等、感染防止対策を徹底し、コロナ禍でも地域住民が安心して参加できるようにしている。
和水町	健康講座を福祉課と合同開催したことで、町民の健康意識が高まり、福祉課主催の健康体操への参加者が集まった。
大津町	健康保険課と連携し、令和5年2月に公民館講座として運動講座及び運動教室(4教室)を開講する予定。
菊陽町	コロナ禍での講座実施のため、会場の消毒、マスク着用、チェックシート提出、ソーシャルディスタンスの確保のため少人数グループの活動やパーティション設置など、様々な肝炎防止対策の工夫をした。
南小国町	「きよら人権デー」(人権研修会)は、新型コロナの影響により小規模での開催となったが、開催の様様を町CATV放送することで、多くの町民への人権教育の普及啓発を図る。
産山村	生涯学習事業として、村NPO法人に協力いただき映写会を実施。村営グラウンドを活用してドライブインシアター形式で上映を行うことにより、来場者同士の接触を避けることができるため、感染症防止対策となった。
高森町	タブレット図書館の設置に向けた準備。
西原村	村民企画講座として実施された「台湾の人々の文化と言語を学ぶ会」に対する補助を実施。TSMCの進出・熊本空港のリニューアルによって想定される異文化交流を楽しめるよう、講師を招いて台湾文化と言語を学ぶ会を実施。

御船町	県立劇場ネットワーク事業「絵本d eクラシック」は、子どもから大人まで楽しめるクラシックコンサートになり、文化芸術に触れる機会を提供できた。
嘉島町	生涯学習講座で学んだことを、地域学校協働活動等のボランティアで活かすことができた。
益城町	そろばん講座を開設し、講座修了者は、地域ボランティアとして小学校でそろばん学習のサポートを行った。
甲佐町	従来は講演会など多くの人を集めて実施するものが多かったが、コロナ禍や参加者の高齢化を鑑み、自治公民館等で少人数開催のできる出前講座に力を入れた。
氷川町	コロナウイルス感染拡大防止対策として、We b講座の実施。
芦北町	昨今の高齢化により、人生の終わり方を考え準備する活動(「終活」)に対する意識が高まっている。そこで、生涯学習の一環として、熊本地方法務局八代支局の協力のもと、町内在住の65歳以上の人を対象に、自筆証書遺言書保管制度説明会を開催した。
多良木町	書道講座のカリキュラムの一つとして、地元産のみつまたを使用した和紙作りを実施。いつも使う道具(紙)がどのように出来ているのかを学び、自分が作った和紙からイメージした書の作品制作を行った。
水上村	住民からの要望により、初めて手話講座を実施。実体験に基づく講話をしていただいた。
五木村	村内在住の方(中国出身)が講師となり、本場の中華料理を家庭でも簡単にできるようにアレンジした「中華料理教室」を実施し、家庭料理の幅を広げる機会となった。
山江村	コロナ禍でもできる事業や新規講座、体験活動の導入。
中央公民館	市民を対象に「ラインの安全活用講座」を実施。L I N Eの基本的な使い方、グループ機能等の便利な使い方、熊本市L I N Eの登録などの習得のために企画。シニアの方や初心者の方向けにも分かりやすい『L I N E講座』で受講生のスキルアップが図られた。
五福公民館	小学生を対象にした天体観測会での皆既月食観察は、平日開催のため、現地参加・オンライン参加どちらでも参加できるようにした。
西部公民館	L I N E講座を実施。利用者に確認したところ、各携帯電話会社において行われている無料のスマホ講座は、L I N E等のアプリには対応してくれないらしい(別途有料)とのことだったため、特に高齢者のニーズがあると考えて実施した。
南部公民館	主催講座「大学生チャレンジ南部公民館」を実施。大学生にまちづくりの手法を学ぶという目的で、キャリア教育とまちづくり人材の確保というねらいを持ち、行政職員とともに主催講座を企画・実施する経験を講座化した。
東部公民館	「読書感想文なんて怖くない!オンライン講座」を実施。夏休み中の小中学生対象に、オンラインで講座を実施した。Z o o m配信をし、双方向でのやり取りが可能となり、来館しなくても自宅で学べると好評だった。
龍田公民館	親子陶芸教室を実施。

託麻公民館	シニア初心者向けスマホ講座を実施。
幸田公民館	「ベビーからのイングリッシュ講座」を0歳～1歳児未満対象、1歳時以上～3歳時未満を5回連続で実施。2倍を越す応募があった。
秋津公民館	Zoom配信によるオンライン講座を複数回実施。
清水公民館	初級スマホ講座とタブレット端末講座を実施。
大江公民館	「園芸講座、多肉植物の寄せ植え講座」を実施。定員の2倍以上の応募があり、パートII講座を実施したところ、再び2倍以上の応募があった。講師は大江公民館で指導されている方で、とても植物に詳しく大好評であった。
花園公民館	「スマホPCなんでも相談講座」を、毎月第3木曜の午前中に実施。スマホを使い始めたけれど使い方が分からず困っている人に対して、個別にアドバイスをしたり、お互いに教え合ったりしながら、地域の人同士が顔見知りになる機会を増やすことを目指した。使い方を覚えた人が、周囲の人に教える姿がよく見られた。
北部公民館	熊本市高齢者支援センターささえりあ北部と共催で「健活教室」を実施。北部公民館をメイン会場として、Zoomで他3会場をつないで行うことにより、利用しやすい会場で、講座に参加することができた。
飽田公民館	デジタルディバイドの解消を目指して、高齢者向けのスマホ体験講座やスマホ活用講座を実施。
河内公民館	地域の民生委員児童委員協議会と連携し、子育て講演会（託児有）を実施。
天明公民館	SDGsについて学ぶ講座として、段ボールコンポストの実践講座を実施。普及啓発に成果があった。
富合公民館	デジタルディバイド解消に向けて、スマホ体験講座を実施。
城南公民館	多様な価値観や文化の違いなどの理解を深めるため、アフリカやオセアニアの出身の長期研究生やアメリカ出身の国際協力員を講師として、各国の紹介や講座生とのふれあいの時間を取るなど、交流ができるような講座を実施。
植木公民館	高齢者を対象に、スマホ初心者向けのLINE活用講座を地域公民館で実施。LINEの基本操作をマスターし、緊急時に連絡等が取れるスキルの習得につなげた。

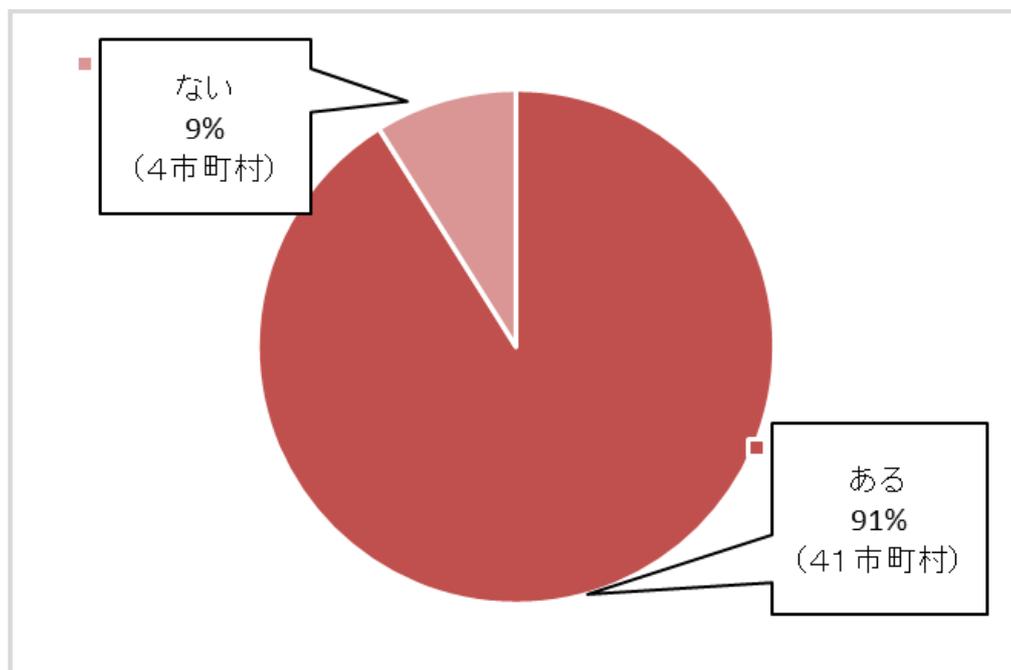
回答状況から、時代の変化やニーズに応じた講座内容（デジタルディバイドの解消や多文化共生）、受講生が参加しやすい開催方法、他部局や他団体との連携等、様々な工夫や取組を行っていることがわかる。

問7 住民への提供が必要だと考えられる学習についてご記入ください。[複数回答可]



「趣味的なもの」「健康」「教養的なもの」「家庭・家族」「防犯・防災」が上位となっている。昨年度同様、10近くの学習領域を複数回答した市町村が非常に多く見られた。地域課題に応じた様々な学習領域の講座の提供が必要だと感じていることがわかる。

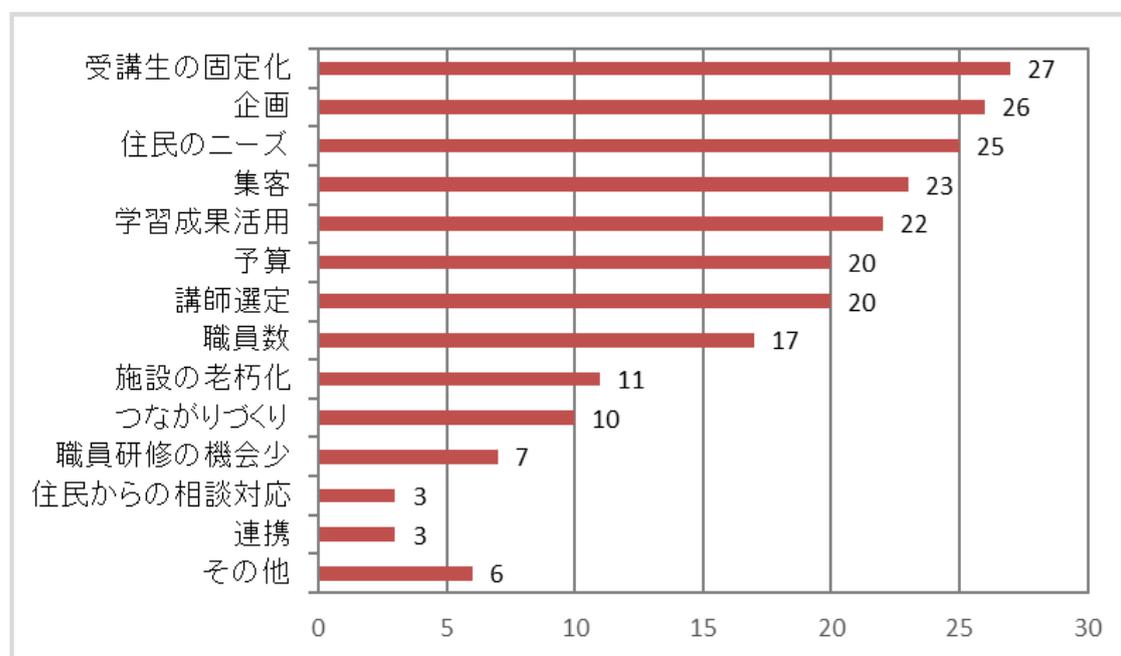
問8 生涯学習を行う上での課題や悩みはありますか。



多くの市町村が課題や悩みを持ちながら、よりよい学習機会の提供のために生涯学習を推進していることがわかる。

問9 問8で「ある」と答えた方にお聞きします。課題や悩みの内容を教えてください。

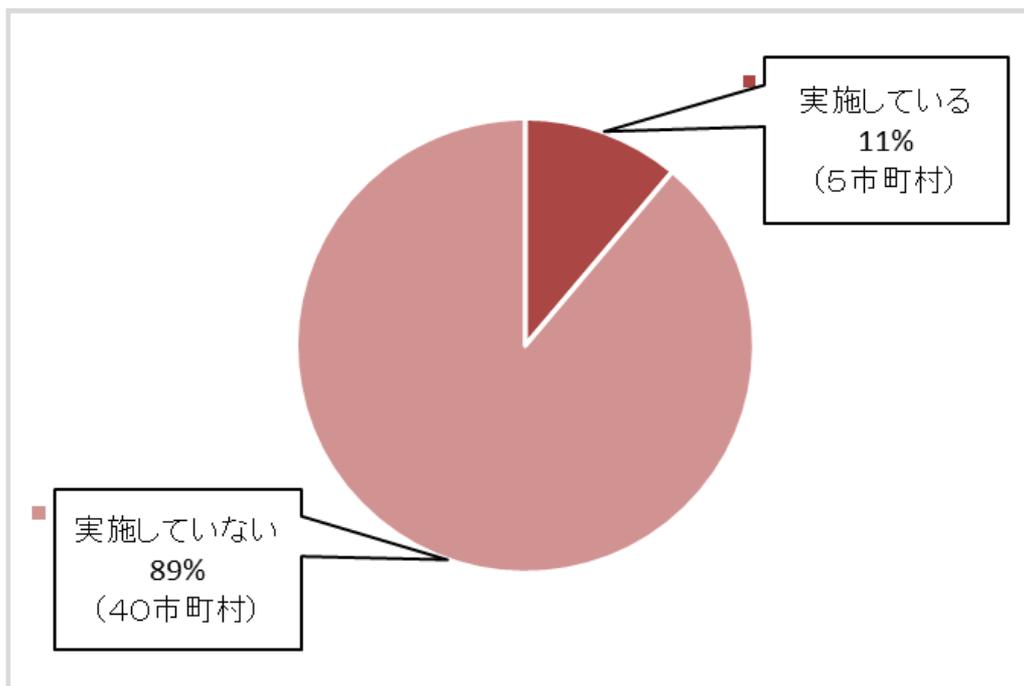
[複数回答可]



生涯学習を推進する上での課題や悩みとしては、「受講生の固定化」「企画」「住民のニーズ」「集客」「学習成果活用」が上位である。昨年度に比べ、「講師選定」が5市町村減少し、「集客」が3市町村増加している。

その他としては、昨年度同様、「自然災害の影響による活動場所の確保困難」「講座のネット配信に係るICT環境が不十分」等が挙げられている。

問10 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。



社会教育指導員を対象とした研修を実施している市町村数は5市町村ある。年間2～10回実施しており、外部研修を活用して研修を行ったり、先進地から講師を招いて研修を行ったりと、地域の実情に応じて実施している。

第3章 県と市町村の連携事業

1節「地域の人づくり講座」3年次経過報告

【事例1】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（荒尾市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
地域学校協働活動推進員等の人材発掘や後継者の育成を図りながら、継続的な地域学校協働活動を行う必要がある。



事 業 目 標
地域学校協働活動の中心的な役割を担う人材を発掘、育成することや学校と地域が連携・協働し、持続可能な活動を行うことができる体制を整えることによって、地域学校協働活動の推進を図る。



講 座 企 画		
テーマ	大好きなあらおっ子の“育ち”のために！ ～あらお（ベーシック）版 地域学校協働活動をすすめよう！～	
講座目標	地域学校協働活動推進員等に求められる知識や技能を学び、地域学校協働活動の実際に生かす。	
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校関係者等とする。 ○地域学校協働活動推進員等から活動内容を学校へ提案できる取組を入れる。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	聞いて、教えて みんなの実践！ ～地域学校協働活動は幅が広い～
	内容	参加者同士が自分の実践を伝え合い、自分の取組を振り返るとともに、視野を広げる。
		県社会教育課 主幹 北岡 誉久
2	演題	推進員に求められていること ～私にできること みんなでできること！～
	内容	学校運営協議会との連携を含めた推進員の役割やCSの事例等を学ぶ。
		県統括コーディネーター 山平 敏夫
3	演題	行って、見て、感じて！ ～先進地事例や先進者から学ぼう～
	内容	先進地事例や先進校事例を通して、活動の取組方や子供の育ち等について学ぶ。
		上天草市地域学校協働活動推進員 竹本 健朗
4	演題	地域学校協働活動が楽しくなるコツ！ ～心の距離を近づけるコミュニケーション術！～
	内容	学校・行政職員、ボランティア、子供や保護者等をつなぐコミュニケーションスキルや、様々な支援方法を学ぶ。
		いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
5	演題	地域と学校の連携 ～CSMAPに挑戦してみよう～
	内容	学校のニーズや地域資源（人・もの・こと）の情報を収集、整理し、地域学校協働活動の計画の立て方を学ぶ。
		内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p>大好きなあらおっ子の“育ち”のために！ ～あらお（ベーシック）版 地域学校協働活動をすすめよう！～【2年次】</p>	
講座目標	<p>地域の課題や資源に目を向け、学校がどのような活動を求めているか具体的な活動を通して学ぶ。</p>	
方法	<p>○地域と学校が協働して取り組む学校図書館の活性化を目指し、先進事例について学び、学校への計画提案へつなげる。 ○参加者同士がつながるように、グループワークを多く取り入れる。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p>みんなの力が学校・地域を元気にする！ ～地域学校協働活動でつくる未来の姿～</p> <p>県統括アドバイザー 山平 敏夫</p>
	内容	
2	演題	<p>子供たち大喜び！学校図書館づくりのコツ教えます！ ～先進事例を聞いて、見て、納得～</p> <p>肥後っ子いきいき 読書アドバイザー 筑紫 紀子</p>
	内容	
3	演題	<p>学校図書館リニューアル大作戦 ～子供たちが行きたい！読みたい！空間づくり～</p> <p>県統括アドバイザー 山平 敏夫</p>
	内容	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> 新型コロナ ナ感染拡大 防止のため 中止 </div>	演題	<p>伝えよう！学校図書館リニューアル計画 ～みんなの思いが子供たちに届く！～</p> <p>県統括アドバイザー 山平 敏夫</p>
	内容	

3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center">大好きなあらおっ子の“育ち”のために！ ～あらお（ベーシック）版 地域と学校が取り組みやすい 地域学校協働活動をすすめよう！～【3年次】</p>	
講座目標	<p>学校と地域が連携・協働し、持続可能な活動を行うことができる体制づくりを進める。</p>	
方法	<p>○山平県統括アドバイザーに継続して講師を務めていただき、地域学校協働活動についての学びを深めていく。 ○参加者同士がつながるように、グループワークを多く取り入れる。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p align="center">県統括アドバイザー 山平 敏夫</p>
	内容	
2	演題	
	内容	
3	演題	
	内容	



3年間の成果と課題を踏まえ、地域と学校が取り組みやすい地域学校協働活動の安定的・継続的な取組を目指す。また、今後も荒尾市独自で定期的な研修の場を確保する。

4 講座の実際

【第1回】

荒尾市の地域学校協働活動推進員、市内全小中学校から代表の管理職や担当者が一堂に会し、和やかな雰囲気の中で講座をスタートすることができた。中学校区毎にグループとなり、ワークショップ形式で課題と改善策について意見交換を行った。各校の現状を把握し、すぐにできるアイデアを出し合うなど、地域と学校をつなぐ具体的な方策を共有するよい機会となった。最後に各中学校区で「課題改善のための行動宣言書」にまとめ、全体で情報共有を行った。



行動宣言書を発表する受講生

【第2回】

講師から、子供が主役となるストーリー性のある地域学校協働活動を創ることの大切さについて話があった。これまで行っていた既存の活動を、起承転結を使った展開に組み立て直し、意図的に繋ぐことで、より子供たちの心に響くものになっていくことを学んだ。グループごとにストーリー性のある地域学校協働活動について考え、話し合った。教職員と推進員でアイデアを共有したことで、今後、実践したいという声が多く聞かれた。



グループでアイデアを出し合う受講生

【第3回】

地元に心を寄せ続ける子供たちを育成するためには、「3つの心寄せ活動」が重要であることを学んだ。①地元をよりよく理解すること、②地元の人から大切にされたという経験があること、そして何より、③子供たち自身が地元の人を大切にしたいという経験があることである。その後のワークショップでは、3つを意識した活動について各自で考え、話し合った。活動の目的や目指す児童・生徒の姿を共有し、具体的な活動例をイメージすることで、今後の活動への意欲が高まった。



活動例について協議する受講生

5 3年目の成果と課題

【成果】

3年目となる今年度は、講座参加者を地域学校協働活動推進員と教職員に絞ってグループワークを実施した。中学校区毎に課題や改善策について意見交換したり、地域学校協働活動の具体的な事例について話し合ったりしたことで、次年度以降に活動に取り組む際の参考となった。

【課題】

学校と地域が今後さらに連携・協働していくためには、推進員を増員するとともに、各推進員が学校へ自ら提案し、コーディネートできるようなスキルアップが必要である。また、児童・生徒が学校から地域へ出て、地元の人を大切に、地域のために活動する経験を意図的に組み込む必要がある。

6 3年目以降の展開

現時点では、まだ学校支援の活動が多く、学校からの要望に地域学校協働活動推進員が対応するといった展開が見受けられる。そのため、推進員と学校が活動状況やよりよくするためのアイデア等について、お互いに話し合う場を定期的にもつことで、これから先も、取り組みやすく持続可能となる活動にしていきたい。また今後も、地域学校協働活動推進員への研修を継続的に行っていく。

【事例2】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（八代市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○地域学校協働活動を推進していくため、新たな人材の育成が必要である。</p> <p>○継続的な地域学校協働活動の仕組みを整える必要がある。</p>



事 業 目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・地域とも学校とも良好な関係をつくり信頼関係を築きながら活動を進める地域学校協働・活動推進員（地域コーディネーター）の発掘、育成を図り、学校と地域が同じ目標に向かって、一体となって協力できる地域活動を目指す。 ・地域学校協働活動実施マニュアルの改善を図りながら、地域学校協働活動の仕組みを整えることで、継続的・安定的な地域学校協働本部を構築する。



講 座 企 画		
テーマ	<p>あなたの力が、やつしろの子供・地域を育てます！</p> <p>～やつしろの絆でつむぐ地域学校協働活動！～</p>	
講座目標	<p>地域学校協働活動に係る施策や事例等を知り、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）に必要な知識や技能を学ぶ。</p>	
方法	<p>○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校関係者等とする。</p> <p>○学習形態は、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p>八代版 地域学校協働活動に期待されること！</p> <p>～「お互い様」が、地域、学校、子供、住民をつなぐ～</p> <p>元県統括コーディネーター 浅野 一登</p>
	内容	
2	演題	<p>できるとき、できる範囲が合い言葉！</p> <p>～地域学校協働活動でやれること！～</p> <p>荒尾市地域学校協働活動推進員 田中 なつみ 県子ども会連合会 事務局長 横手 宏公</p>
	内容	
3	演題	<p>地域学校協働活動が楽しくなるコツ①！</p> <p>～心の距離を近づけるコミュニケーション術！</p> <p>いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子</p>
	内容	
4	演題	<p>地域学校協働活動が楽しくなるコツ②！</p> <p>～やつしろの宝（ひと・もの・こと）を生かす術～</p> <p>熊本県立大学 教授 柴田 祐</p>
	内容	
5	演題	<p>地域のSOSを読み解く！</p> <p>～みんな笑顔 やつしろのまちづくり～</p> <p>八代市学校教育課 指導主事 前田 博治 八代市教育サポートセンター 支援相談員 西村 文子</p>
	内容	

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center">あなたの力が、やつしろの子供・地域を育てます！ ～やつしろの絆でつむぐ地域学校協働活動！～（2年次）</p>	
講座目標	<p>地域学校協働活動の企画作成や先進事例をとおして、地域学校協働活動推進員等としての知識や技能を高める。</p>	
方法	<p>○受講者の主体的な研修及びネットワークづくりのため、参加体験型の研修や受講者同士の交流活動の場を設定する。 ○学校の実際の活動や課題を知り、学校支援を中心とした地域学校協働活動の実例に学ぶ。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p align="center">地域と学校の連携・協働 ～CSMAPで計画づくり～</p> <p align="right">内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p>
	内容	
2	演題	<p align="center">子供たちは地域のたからもの ～子供たちの瞳が輝くために～</p> <p align="right">玉名市立玉陵中学校 校長 丸塚 慎一郎</p>
	内容	
3	演題	<p align="center">地域力を結集！ ～見える化で、子供の笑顔を広げます～</p> <p align="right">八代市教育サポートセンター （くま川教室） 室長 白濱 孝治 指導員 宮崎 ゆみ子</p>
	内容	

3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center">あなたの力が、やつしろの子供・地域を育てます！ ～やつしろの絆でつむぐ地域学校協働活動！～（3年次）</p>	
講座目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動の事例発表をとおして、地域学校協働活動推進員等としての知識や技能、意識を高める。 ・講演をとおして、情報発信力を向上させ、活動の知名度を上げる。 	
方法	<p>○学校の実際の活動や困りごとを知り、地域学校協働活動との連携・協働の実例を学ぶ</p> <p>○学習形態は、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<p align="center">地域学校協働活動事例発表会 ～他地域との交流をとおして、学び、生かす！～</p>
	内容	
2	演題	<p align="center">新聞記者に学ぶ情報発信スキルアップ講座 ～学ぼう！！私の活動を伝えるコツ～</p>
	内容	
	他自治体（天草市）の具体的な事例紹介や八代市における地域学校協働活動の発表をとおして、地域学校協働活動に関する情報を共有、整理、検討することで、今後の活動に生かす。	<p>天草市地域学校協働活動 統括コーディネーター 向 博俊</p>
	伝わりやすい文章の書き方や、情報発信の方法について学び、周知、啓発活動に役立てる。	<p>熊本日日新聞社 読者・新聞学習センター 今村 浩</p>



3年間の成果と課題を踏まえ、地域学校協働活動の進捗状況に応じた内容、地域学校協働活動推進員同士のネットワークを深めるための講座を継続して実施していく。

4 3年目の講座の実際

【第1回】

第1回は、天草市地域学校協働活動統括コーディネーターの向博俊氏を講師に招き、天草市における地域学校協働活動の実践の中から、「持続可能性を高める仕組みや取組」「地域学校協働活動の具体例と意義」「地域人材の発掘」を中心に学んだ。毎月定例会を開催し、推進員、教育事務所社会教育主事、生涯学習課員が集まって、情報交換や情報共有を行うことで、地域の中で新たな連携の場ができ、推進委員同士のつながりや悩みの解決、地域人材の情報の獲得等、大きな成果をあげていることを知ることができた。

また、推進員のボランティア保険への加入や、職員室内に座席を確保するなど、推進員が組織の一員として活躍できる体制が確立されていること等、今後の活動の参考になった。

さらに、八代市内の3人のコーディネーターによる事例発表も行われ、それぞれの学校の実態に合わせた取組を知り、多様な活動の在り方を考える機会になった。



天草市の活動事例・仕組みづくりの紹介



八代市コーディネーターによる事例発表

【第2回】

八代市の地域学校協働活動をより多くの方に認知してもらう必要があるため、熊本日日新聞社読者・新聞学習センターの今村浩氏を講師に招き、情報発信スキルアップ講座を開催した。

実際に新聞を見ながら、読者の興味・関心を高めるための工夫について学んだ。読者にとって、見出しは究極の要点となるので、限られた字数（10文字程度）の中に書くことや、図・表・グラフ等を添えることで読み手の負担を減らす「視読解」の効果、写真の選び方等、大変参考になった。また、実際に受講生が作成した原稿と、講師の修正が加わった原稿を比較することで、紙面配置や見出しの付け方、キャプション（説明文）や編集後記の重要性について具体的に理解することができ、受講生の情報発信への意欲を高めることができた。



情報発信のポイントについての解説



今後の活動への思いを話す受講生

5 3年目の成果と課題

【成果】

講座をとおして、他の学校及び地域における先進事例や、八代市の課題解決に関する取組等を学んだことで、地域学校協働活動推進員や主任児童員等にとって、地域学校協働活動の取組や教育課題に関する理解が深まり、活動意欲の向上につながった。

【課題】

地域学校協働活動に参画する新しい人材の不足や、各学校間における取組状況の違いが大きい。今後、本講座や学校訪問、研修会等をとおして、さらに地域学校協働活動の推進のための周知・啓発を行っていく。

6 3年目以降の展開

今後は、市単独の事業になるが、地域学校協働活動の進捗状況や課題に対応した内容を検討し、講座を継続していく。また、地域学校協働活動推進員間のつながりを深めながら、各担当地域における地域学校協働活動の推進に向けて取り組んでいく。

【事例3】地域学校協働活動推進員の人材育成を目的とした講座（玉名市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動推進員の経験の差が大きい。 ○中学校区以外の地域学校協働活動推進員同士の連携や交流が活発でない。



事 業 目 標
地域学校協働活動推進員のネットワークを広げ、仲間と共に助け合い、楽しんで地域学校協働活動に取り組んでいく態度を養う。また、子供たちのためになる活動を充実させていくとともに、少しずつ地域づくりに向けた取組に発展させていく。



講 座 企 画		
テーマ	つながる つなげる 地域と学校 ～仲間といっしょに地域学校協働活動 入門編～	
講座目標	玉名市の地域学校協働活動推進員同士の横のつながりをつくるとともに、推進員に求められるコミュニケーションスキルを学び、地域学校協働活動の実際に生かそうとする態度を養う。	
方法	○参加者同士の交流活動の場を多く設定する。 ○学校支援活動に焦点をあてた内容を実施する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	不安が期待に変わる！ ～聞いて、聞かせて推進員の胸の内～
	内容	アイスブレイクや推進員としての不安等の語り合いを通して、仲間づくりの素地を作る。
		内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
2	演題	活動が楽しくなるコミュニケーション術！ ～人とつながるコツが分かる！～
	内容	地域学校協働活動に関わる人たちをつなぐコミュニケーションスキルや、相手の話を引き出す話術について学ぶ。
		いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
3	演題	子供たちは、地域の宝もの ～子供たちの瞳が輝くこと教えます！～
	内容	学校の実際の活動や学校が困っていることを知り、学校支援を中心とした活動につなげる。
		玉名市立玉陵中学校 校長 丸塚 慎一郎
4	演題	活動のヒントが満載！ ～上手くいっている事例には必ず理由がある～
	内容	地域学校協働活動の好事例をとおして、「活動のきっかけ・質の向上・継続に必要なこと」などを学ぶ。
		県統括コーディネーター 山平 敏夫
5	演題	仮想 地域学校協働活動 ～「やってみたい」を形にする～
	内容	やってみたい活動を参加者同士で考え、今後の実践のヒントとする。
		県統括コーディネーター 山平 敏夫

2 2年次の計画

講座企画			
テーマ	つながる つなげる 地域と学校 ～仲間といっしょに学び合いステップアップ!～		
講座目標	地域学校協働活動推進員同士の交流の場を多く設定することで、仲間とともに学び合い、横のつながりを深め、学校支援活動を中心とした活動の充実につなげる。		
方法	○受講生同士の横のつながりをつくるため、交流活動の場を多く設定するとともに、グループ編成についても工夫を行う。 ○学校支援活動に焦点をあてた内容を実施する。		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	玉名市の素晴らしい取組を知る ～プラスワンのポイントは～	
	内容		玉名市で行われている地域学校協働活動の取組を知り、自校の取組にプラスワンを目指すためのポイントについて考える。
2	演題		推進員井戸端会議（その一） ～あなたのノウハウ教えてください!～
	内容		他中学校区（同校種）の方達と、それぞれの取組について意見交換を行うことで学び合い、疑問を解消する。
3	演題		推進員井戸端会議（その二） ～その〇〇いただきます!～
	内容	他中学校区（同校種）の方達と話し合い、自校の取組にプラスワンできることを考える。	
4	演題	学校と地域における感染症への理解	
	内容	九州看護福祉大学 教授 安心した活動ができるよう感染症等について学習し、学校と地域における活動時の感染症対策への理解を深める。 嶋 政弘	
5	演題	学校支援活動から地域づくりへ ～次年度に向けてのステップアップ～	
	内容	他地域の地域学校協働活動の事例や地域づくりにつながる活動について学び、次年度に向けての構想を練る。 県統括アドバイザー 山平 敏夫	

3 3年次の計画

講座企画		
テーマ	つながる つなげる 地域と学校 ～仲間といっしょに学び合いスキルアップ!～	
講座目標	参加体験型の講座を実施し、参加者の周知・広報に関するスキルアップと参加者同士の横のつながりづくりを図ることで、地域学校協働活動を中心とした子供や地域のための活動の充実につなげる。	
方法	○参加者同士の横の交流活動の場を多く設定する。 ○受講対象者を地域学校協働活動推進員及び社会教育関係団体者とする。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴
	内容	
2	演題	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴
	内容	



次年度以降も地域の課題や住民のニーズに応じたテーマを設定し、社会教育分野における本市の人材育成や交流機会の創出に努める。

4 3年目の講座の実際

【第1回】

3年次は「仲間といっしょに学び合いスキルアップ！」をメインのテーマに掲げ、講座内容を情報発信に必要なスキル学習に設定した。受講対象者も広げ、地域学校協働活動推進員だけでなく、社会教育関係団体にも参加を呼びかけた。第1回の講座では、効果的に情報発信を行うためには、「誰に」「何のために」「どのように」の3つを最初に考えることの大切さを確認した。その後、伝えるための3つのステップである「情報の編集」と「キャッチコピー」を学ぶ場面では、各自が考えた自己紹介文を伝え合うことで、学びを深めることができた。受講生の情報発信スキルの向上と受講生同士の交流を図る目的が達成された学びの多い講座となった。

【第2回】

第2回講座では、前回の学習内容の確認を行った後、伝えるための3つのステップである「レイアウト」の学習を行った。「図：文＝7：3」「見る人の目線の動き」「紙面に使用する文字の大きさや色数」等具体的なポイントを参考資料をもとに学ぶことができた。また、その後の演習では、受講生それぞれの立場で今後必要とされるチラシのラフ（紙面をおおまかに捉えたもの）を作成し、グループで伝え合い、良いものにしよう和高め合うことができた。今回の講座でも各グループで活発な意見交換が行われ、受講生同士のつながりを更に深めることができた。



伝えるためのポイントを学ぶ受講生



自己紹介文を伝え合う受講生



レイアウトのポイントを学ぶ受講生



作成したチラシを伝え合う受講生

5 3年目の成果と課題

【成果】

情報発信に関する基礎知識について、演習をとおして学ぶことで、受講生は情報発信の大切さに気付くとともに、情報発信に対する意欲が高まった。また、受講対象者の幅を広げたことで、玉名市の社会教育・生涯学習に携わる方々の新たなつながりをつくることができた。

【課題】

今年度は、幅広い受講対象者に参加していただくため、開催時間帯を夜間に設定したものの、各回の参加者は10名程度であり、参加者を十分に集めることができなかった。講座開催の時期や時間帯、周知方法の見直しが必要だと感じた。

6 3年目以降の展開

「地域の人づくり講座」は、玉名市の社会教育・生涯学習に携わる方々同士の交流の機会としても重要な意味を持つ場であり、次年度以降も地域の課題や住民のニーズに応じたテーマを設定し、社会教育分野における本市の人材育成や交流機会の創出に努めていきたい。

第3章 県と市町村の連携事業

2節「地域の人づくり講座」2年次経過報告

【事例4】公民館関係者等の人材育成を目的とした講座（天草市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○講座開催内容において、幅広い世代に生涯学習の機会を提供する必要がある。</p> <p>○公民館講座の充実のため、さらに地域資源の活用を図ったり、各地区の公民館の情報交換を図ったりする必要がある。</p>



事 業 目 標
<p>地域学校協働活動との連携及び地域資源（人・もの・コト）を生かした特色ある公民館事業を展開できる人材の育成を通じて、幅広い世代に学習の機会を提供する「まなぶ、つながる、いかす」公民館を目指す。</p>



講 座 企 画		
テーマ	天草の学びの拠点 「まなぶ、つながる、いかす」公民館 ～地域の魅力を生かす！ 公民館と地域学校協働活動のつながり～	
講座目標	天草市の公民館が一体となって公民館事業を展開するために、目指す姿や方向性を共有するとともに、地域の強み（魅力・特色）を生かした取組及びそのために必要なスキルを学ぶ。	
方法	○受講対象者は、公民館関係者及び地域学校協働活動推進員等とする。 ○学習形態は、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題 天草の学びの場「まなぶ、つながる、いかす」公民館 ～地域の魅力を生かした 体験学習 in あまくさ～ 内容 天草市が目指す生涯学習の推進、公民館事業について共有し、一体となって事業を展開する機運を高める。	天草市長 馬場 昭治
2	演題 子供たちの学びを支える 公民館講座 ～公民館と地域学校協働活動との連携～ 内容 公民館活動と地域学校協働活動の連携による公民館事業の事例と可能性について学ぶ。	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
3	演題 事例に学ぶ！世代をこえて創る公民館講座 ～地域の課題解決と未来への学びをつなぐ～ 内容 地域の課題解決と学校教育、まちづくりをつなぐ公民館講座の在り方について学ぶ。	熊本大学 熊本創生推進機構 准教授 田中 尚人
新型コロナ ナ感染拡大 防止のため 中止	地域と学校をつなぐアイデア探し！ ～学びをつなぐ講座企画～ 地域の課題やニーズ、地域資源を生かした次年度講座を企画する。	県社会教育課 参事 桑原 秀明
新型コロナ ナ感染拡大 防止のため 中止	教えます！人が集まるチラシ作成 ～魅力的なチラシづくりのために～ チラシ及び公民館だよりの作成等、効果的な情報発信の方法について学ぶ。	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	天草の学びの拠点 「まなぶ、つながる、いかす」公民館【2年次】 ～地域の魅力を生かす！ 公民館と地域学校協働活動のつながり～	
講座目標	各学区で公民館と地域学校協働活動が連携し、地域の魅力・特色を生かした活動ができる取組を企画し、次年度の実践につなげる。	
方法	○学区ごとに地域資源（人・もの・コト）を生かした講座を企画する。 ○話し合い及び交流の時間を確保する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	熊本市社会教育課 主幹 桑原 秀明
	内容	
2	演題	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴
	内容	
3	演題	県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	
4	演題	
	内容	



2年次の成果と課題を踏まえ、3年次は、公民館と地域学校協働活動が連携し、地域の魅力・特色を生かした活動の実現に向けて取り組む。

3 講座の実際

【第1回】

昨年度の取組と各参加者の天草への思いを確認した後、「アイデアを楽しむ」ことをキーワードに次年度実現可能な企画についてグループで考えた。企画は「具体的活動名」「内容」「人のつながり」「実施ポイント」「期待される効果」の5コマの紙芝居形式にまとめて伝え合い、全体で共有することができた。

【第2回】

「伝わる」チラシ作成のためには、伝える対象・目的・手法を最初に決めておくことが大切であることを確認した後、「情報の編集」「キャッチコピー」「レイアウト」の3つのポイントを基に、より具体的に広報物を作成する手順について学ぶことができた。今後の情報発信を効果的に行う上で、学びの多い講座となった。

【第3回】

子供たちに出会わせたい地域の「ひと、もの、こと」を洗い出し、天草市各地域の「宝」を確認することができた。公民館と学校（子供）が連携・協働した活動の事例も多く紹介していただいたことで、新たな気づきや発見も生まれ、公民館活動の新たな企画につながる講座となった。

【第4回】

前回のアイデアを基に、各班のアイデアに共通するものを確認した。また、「ひと・もの・こと」との出会いには、「ストーリー性」と「学校と公民館との往還の数を増やすこと」が重要であることを学んだ。ふるさとに心を寄せ続ける子供の育成には、「ふるさとをよりよく理解すること」「ふるさとの人から大切にされたという経験」「ふるさとの人を大切にしたという経験」の3つが不可欠で、天草のよさを伝えていくことの重要性に気づかされた。

4 2年目の成果と課題

【成果】

学校区ごとのグループワークを多く実施したことで、公民館職員と地域学校協働活動推進員との交流が深まり、双方が連携した取組の必要性や子供たちの学びを地域で支える役割など、共通認識を持つことができた。また、次年度に実施を予定している新たな活動を形にしていく上で、「ストーリー性を大切にする」とことと「往還の数を増やす」とこと等の、方向性を示すことができた。

【課題】

公民館職員と地域学校協働活動推進員の共通理解は深まりつつあるが、学校（子供）が必要としている活動を把握するためにも、学校・公民館・地域学校協働推進員が一同に集い、共に進むべき方向性を確認する場が必要であると感じる。

5 3年目以降の展開

2年次の成果と課題を踏まえ、3年次は、公民館と地域学校協働活動が連携し、地域の魅力・特色を生かした活動を実現することで、子供たちの成長を地域で支える環境づくりに努める。



【事例5】地域学校協働活動推進員等の人材育成を目的とした講座（人吉・球磨10市町村）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域学校協働活動を推進していくための人材が確保できていない。 ○各市町村の地域学校協働活動の取組等を共有し、管内で一体となって推進を図る必要がある。



事 業 目 標
「子供が輝くまち 人吉・球磨」を目指して、地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘、育成を通して、人吉・球磨地域が一体となって継続的・安定的な地域学校協働活動の推進を図る。



講 座 企 画			
テーマ	子供が輝くまち 人吉・球磨 ～地域の絆、まちとまちの連携を生かした地域学校協働活動～		
講座目標	地域学校協働活動の有用性や可能性を理解するとともに、地域学校協働活動推進員等に求められる知識や技能を学び、活動の実際に生かそうとする態度を養う。		
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校支援関係者とする。 ○学習形態は、講義とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。		
回数	演題・内容	講師	
1	第一部 演題	注目！地域学校協働活動の今！ ～学校と地域が学びの未来をつくる！～	県社会教育課 参事 桑原 秀明
	内容	地域学校協働活動の有用性や可能性、地域学校協働活動推進員の役割を学ぶ。	
	第二部 演題	推進員に求められていること ～私にできること みんなでできること！～	県統括アドバイザー 山平 敏夫
	内容	学校運営協議会との連携を含めた地域学校協働活動推進員の役割やCSの事例等を学ぶ。	
2	演題	地域学校協働活動が楽しくなるコツ！ ～心の距離を近づけるコミュニケーション術～	いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子
	内容	学校、行政職員、ボランティア、子供や保護者等をつなぐコミュニケーションスキルや、様々な支援方法を学ぶ。	
3	演題	みんなの第一歩で 子供が輝くまちへ ～天草の3年間の歩みから～	天草市地域学校協働活動 統括コーディネーター 向 博俊
	内容	子供の姿や先進地事例の段階的な取組事例や地域一体として地域学校協働活動を推進する仕組みを学ぶ。	
4	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 新型コロナ 感染拡大 防止の ため中止 </div>	地域学校協働活動を仮想体験！ ～「やってみたい」をカタチにする～	県統括アドバイザー 山平 敏夫
		やってみたい活動を参加者同士で考え、今後の実践のヒントにする。	

2 2年次の計画

講座企画		
テーマ	<p align="center">子供が輝くまち 人吉・球磨 【2年次】 ～地域の絆 まちとまちの連携を生かした地域学校協働活動～</p>	
講座目標	<p>地域学校協働活動のより一層の推進に向け、推進員等の資質向上研修及び人材拡充を図るとともに、CSと地域学校協働活動の一体的な推進モデルを考える。</p>	
方法	<p>○受講対象者は、地域学校協働活動推進員等及び学校支援関係者とする。 ○学習形態は、講義とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。</p>	
回数	演題・内容	講師
1	演題	地域と学校をつなぐプログラム
	内容	<p>地域と学校がつながりをつくり連携を深めるために効果的なアイスブレイクやコミュニケーションの手法を学ぶ。</p>
2	演題	地域学校協働活動の連携マネジメント
	内容	<p>学校のニーズ（必要）と地域のシーズ（種）をふまえたマネジメントのポイントを学び、地域学校協働活動に生かす。</p>
3	演題	地域学校協働活動悩みの相談室
	内容	<p>地域学校協働活動の悩みをみんなで出し合い、多様な視点から検討することで、課題解決を目指す。</p>
4	演題	地域学校協働活動の企画創造
	内容	<p>地域と学校の双方にとって効果的な活動にするための企画立案や活動時のポイントについて学ぶ。</p>
		<p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p> <p>県統括アドバイザー 山平 敏夫</p> <p>内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三</p> <p>県社会教育課 主幹 桑原 秀明</p>



各市町村のニーズに対応する内容、開催日時、広報の仕方を工夫し、地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘と育成、人吉球磨地域の継続的、安定的な地域学校協働活動の推進を図る。

3 講座の実際

【第1回】

地域と学校(子供)との関わり方のポイントについて学んだ。対話や交流を円滑にするための「手法」や「道具」を活用して活動をデザインしていくことの大切さについて、アイスブレイクやカードゲームを体験することで理解することができた。受講生からは「やり方次第で、グループのつながり、地域のつながりを持つきっかけにできることを学んだ。」「人と人とをつなぐ有用な学びができた。自分の役割や活動の目的を認識して活動にあたりたい。」との感想があった。



カードゲームを体験する受講生

【第2回】

自分が地域コーディネーターであると仮定して、地域や学校、行政等から相談があった時にどう対応するのかを、学校の年間計画や敷地図、地域の人材リスト表を活用して考えた。その後、さらにグループで検討することで、より充実した活動に発展させたり、新たな視点を得たりすることができた。学校と地域のお互いがウィンウィンの関係になるプランづくりの重要性や、コーディネーターの役割や準備、地域の方へ依頼する際のポイントについても学ぶことができた。



学校と地域との関係性について学ぶ受講生

【第3回】

4人グループで、順番に相談者役(1人)とアドバイザー役(3人)を演じながら、ケーススタディを行った。実際に相談者の悩みを聞いてアドバイスをするという場面を設定したことから、悩みに寄り添いながら、その背景や環境、組織等、多様な視点から学びを深めることができた。受講生からは、「地域学校協働活動を行っていく上での悩みを共有でき、いろいろなアイデアをいただけて参考になった。今後の取組に生かしたい。」という感想があり、受講者の意欲の向上につながった。



グループで多様な視点から検討し合う受講生

【第4回】

地域と学校の双方向にとって効果的な活動にするための企画について学んだ。グループで、効果が期待できる活動を挙げた後、それぞれの活動を実現するための具体的取組や活動時のポイント・注意点等を考えていった。シートを活用することで考えが整理され、意見を活発に出し合うことができた。また、最後に、他の班のシートを見合うことで全体での共有化を図った。今後、自分たちの活動を企画する際に活用できるワークショップ形式の学びとなった。



他グループのシートを確認する受講生

4 2年目の成果と課題

【成果】

各講座ともに、市町村の枠を超えた5名程度の少人数で、地域学校協働活動の活性化に向けた協議や情報交換の場を設定し、また、グループ編成にも留意することで、横のつながりづくりを行うことができた。

【課題】

地域学校協働活動を推進する上で中核となる方の参加を得られたが、4講座ともに夜の講座ということで参加を見合わせた方もいた。より多くの対象者に参加してもらうために、講座開催日時の検討が必要である。

5 3年目以降の展開

各市町村のニーズに対応した内容、開催日時、広報の工夫を行い、地域学校協働活動推進員及びボランティア人材の発掘と育成、人吉球磨地域の継続的、安定的な地域学校協働活動の推進を図る。

第3章 県と市町村の連携事業

3節「地域の人づくり講座」1年次経過報告

【事例6】地域学校協働活動の人材育成を目的とした講座（合志市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
<p>○地域住民による学校支援活動、児童生徒による地域行事への参加や伝統芸能伝承、祭りや運動会をとおした交流などが行われているが、学校間や地域間で取組に差がある。</p> <p>○地域と学校をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員の中には、学校や地域での認知度の低さに悩んでいる方もいる。</p>



事 業 目 標
<p>学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員や担当職員の育成を図り、本市教育委員会の最終目標である「子どもたちが合志市に愛着と誇りを持ち、地域に貢献したいと考える人材を育てる」ことにつなげる。</p>



講 座 企 画		
テーマ	合志市に愛着と誇りをもつ 未来の人材を育てよう ～みんなで進める わがまちの地域学校協働活動～	
講座目標	近隣校区の地域学校協働活動推進員や学校関係者が集まり、地域学校協働活動の基礎講座と県内モデル地域の実践例から、課題解決のヒントを得る。	
方法	○受講対象者は、地域学校協働活動推進員、学校管理職、地域連携協働担当職員等とし、講義形式とワークショップ（参加体験型）を織り交ぜて行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	合志市における地域学校協働活動の推進に向けて （西合志校区）
	内容	地域学校協働活動を推進する上での悩みや課題について情報交換し、その解決方法について県内モデル地域の事例から学ぶ。
		氷川町教育委員会 統括的な地域学校協働活動推進員 古閑 由美 氷川町教育委員会 学校教育課審議員兼指導主事 平田 裕子 県統括アドバイザー 山平 敏夫
2	演題	合志市における地域学校協働活動の推進に向けて （合志校区）
	内容	地域学校協働活動を推進する上での悩みや課題について情報交換し、その解決方法について県内モデル地域の事例から学ぶ。
		天草市地域学校協働活動 統括コーディネーター 向 博俊 県社会教育課 主幹 桑原 秀明



<p>1年次の成果と課題を踏まえ、2年目は地域学校協働活動推進員のスキルアップや周知・連携のための講座等を計画し、合志市全体での活動促進を目指す。</p>

2 講座の実際

【第1回】

講師から、地域学校協働活動の進め方や具体的な取組の様子についてお話があった。氷川町では、推進員同士の情報共有と、学校へのきめ細かい「つなぎ」ができていることが、活動の推進につながっていることを学んだ。

山平県統括アドバイザーからは、これまでの「学校支援活動」から、未来の人材育成のための「地域学校協働活動」へ意識転換を図っていくことについてお話があった。ワークショップでは、より多くの方が参画し、双方向の連携・協働の活動にするために、既存の活動にプラス1の活動を加えるアイデアについて考え、話し合う場をもつことができた。

受講生からは、「推進員として具体的に何をしたらよいかわからなかったので、他地域の実践や活動の様子、仕組みが聞けて大変参考になった」「アイデアを出していけば、子供たちにつける力の幅が広がると感じた」等の感想が聞かれた。

【第2回】

天草市の統括的な地域学校協働活動推進員から、地域学校協働活動の事例や、子供・保護者・地域住民等の生の声についてご紹介いただいた。子供たちの成長の様子や、地域の活性化につながっている様子がよく伝わり、五者連携の具体的なイメージをもつことができた。

その後のワークショップでは、推進員から率直な悩みや質問が出され、課題解決のためのアイデア等について全体で情報共有することができた。

受講生からは、「児童生徒が受け身でなく積極的に取り組んでいる様子が印象に残った」「『川で育った子供は川に戻ってくる』という言葉に感銘を受けた」等の感想が聞かれた。



3 1年目の成果と課題

【成果】

モデル地域の実践発表を聞くことで、より具体的な活動内容が分かり、受講生からは「今後の取組に生かしていきたい」との声が複数聞かれるなど、活動への意欲を高めることができたと感じる。また、ワークショップで他校の先生方や推進員の方たちのアイデアを聞き、悩みや不明な点を共有できた。

【課題】

これまで、コロナ禍により行事等の削減等で活動自体を計画できないことが多く、「推進員や地域連携担当になったものの、どうしていいかわからずにいた」「他地域の取組も聞きたい」という感想もあり、他地域との情報共有が求められていることが分かった。

4 2年目以降の展開

今後、地域学校協働活動の認知度を高め、より多くの方々と連携・協働しながら進めるために、周知用のポスターやチラシの作成、動画の作成などのワークショップを取り入れた講座を計画する。併せて、対象者の枠を拡げ、幅広い地域人材とのつながりも生み出していく。

【事例7】生涯学習・生きがいつくりの場としての「たまり場」づくりを目的とした講座（小国町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域の活性化を目的とした、地域の人材発掘及び人材活用が不十分である。 ○公民館をつどいの場とするコミュニティの形成が必要である。



事 業 目 標
全世代の地域住民が気軽に集える、生涯学習・生きがいつくりの場としての「たまり場」づくりを目指し、将来的には地域の人材発掘・人材活用のベースとなる場として地域活性化につなげる。



講 座 企 画		
テーマ	小国のたまり場プロジェクト ～「いつでも、だれでも、とりあえず楽しい」場所づくり～	
講座目標	誰でも気軽に集い、創作活動、情報交換、相談、健康づくりなど、様々な活動が自由に行えるたまり場づくりを目指す。	
方法	○地域の資源を生かした講座を行う。（坂本善三美術館・小国杉端材等） ○つながりづくりとイメージづくりのため、実践活動を多く取り入れる。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	小国町教育委員会 坂本善三美術館 学芸員 山下 弘子
	内容	
2	演題	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	
3	演題	染織作家 増野 奈古
	内容	
4	演題	かける木工舎 當房 こず枝
	内容	
5	演題	美術家・地域学校協働活動 推進員 坂崎 隆一
	内容	



活動内容の種類を増やすとともに、実際に自分たちで運営していくイメージづくりを行う。また、民間の助成金の申請や他分野・他機関との連携も深めていく。
--

2 講座の実際

【第1回】

坂本善三美術館を会場として、地域の50歳以上の人々の活動を紹介する「Over 50で楽しむ善三展」を学芸員の解説を受けながら鑑賞し、生活の中で楽しみを見出しながら豊かに人生を送ることの素晴らしさを改めて感じる機会となった。



【第2回】

たまり場での具体的な活動の参考として、県内外の様々な取組の事例を知ることができた。特に、地域の資源を生かす取組や身の周りにある物から価値を見出すアイデアは、今後の活動を考えていく上で参考となった。



【第3回】

たまり場での活動を想定して、不要な布の端切れを使った「裂き織」づくりを行った。熱心にもものづくりに取り組むとともに、参加者同士の会話も弾み、実際のたまり場での活動をイメージすることができた。



【第4回】

たまり場での活動を想定して、木材の端材を使った「積み木」づくりを行った。無心になって作業に取り組む中、地元の小国杉の端材を使用したこともあり、参加者から「たまり場の活動で商品化したい」という声も上がった。



【第5回】

多くの地域活動の事例を聞き、たまり場で取り組みたいことを出し合うことができた。活動内容だけでなく、活動場所や運営方法等さまざまな意見が出され、参加者の「たまり場」の実現に対する熱い思いを感じることもできた。



3 1年目の成果と課題

【成果】

今回の講座で、地域の中で「たまり場」的な活動をすでに行っている方や、興味を持っている方々とつながることができた。特に、福祉分野からの反応が多く、「たまり場」的な場のニーズの高さを感じ、生涯学習が異分野・他分野をつなぐ存在であるという認識を新たにした。

【課題】

今後は、地域資源（たまり場に関わる様々な関係者、制作活動に生かせるモノやアイデア、活動を展開できる場所等）を発掘するとともに、たまり場活動として自立していくあり方を確立していくことが課題と考える。

4 2年目以降の展開

次年度は、活動内容のバリエーションを増やしていくとともに、再来年度に向けて、民間の助成金の申請を考えるなど、実際に自分たちでたまり場を運営していくイメージ作りを行う。また、他機関、他分野との連携を深め、この取組を必要としている人々を繋ぐ活動にしていきたい。

第4章 学習機会提供事業

【くまもと県民カレッジ主催講座①】

コース名	大人の親子コース		
テーマ	大人の親子のコミュニケーション術 ～楽しくなる親との付き合い方～		
背景	核家族化が進み、昔と比較して親との付き合い方に変化が生じている。親との付き合いは、子育て以上に難しく感じている人も多く、それを理由に疎遠になってしまうこともある。		
ねらい	自分の親や配偶者の親とのよりよい付き合い方を身に付ける。		
回	演題	講師	日時
1	子供50代、親80代の親子関係 ～50代から見える親の姿の正しいとらえ方～	九州ルーテル学院大学 教授 永野 典詞	土曜 10:00～ 11:30
2	コミュニケーションの「ヒ・ミ・ツ」 ～家族が幸せになるちょっとした対応術～	いけだマナーアカデミー 代表 池田 充子	
3	大人の親子のコミュニケーション ～心豊かに過ごすためのヒント(事例紹介)～	一般社団法人 夢ネットはちどり 代表理事 堤 弘雄	

<成果>

- 受講生の抱える悩みや思いに対応した内容だったため、受講者の前向きな気持ちが引き出せた。
- 受講生同士が話す場面があり、受講生の心がほぐれて講座の雰囲気はよくなった。
- 各回、「すぐ実践できること」を入れた内容にしたので、受講生の意欲向上につながった。



☆実施上のポイント☆

○講座日の設定

ターゲットとする人が集まりやすい曜日や時間帯を考慮して設定する。

○受講生同士のつながりづくり

講座の中で、受講生がお互いに話したり一緒に活動したりする場面を設定をする。

→講座の雰囲気がよくなり、受講生の満足度が高まる。

【くまもと県民カレッジ主催講座②】

コース名	眼活コース		
テーマ	疲れ目スッキリ！「眼活」講座 ～健康な目を少しでも長く保つコツ～		
背景	現代社会では、子供から大人までがスマートフォンやパソコンを使うことが当たり前の生活になっており、それにより、目の疲れに悩む人の数も増えている。		
ねらい	現代社会において、目の疲労や疾病を低減するために、日常生活で気をつけたい方法を知ること、目の健康の保持増進に対する意識を高める。		
回	演題	講師	日時
1	目の疾病を学んで 眼活スタート！ ～生活習慣や加齢に伴う目の疾病～	いでた平成眼科クリニック 院長 出田 隆一	月曜 19:00～ 20:30
2	目からのSOSをつかむ ～目の疾病と初期症状～	眼科こがクリニック 院長 古賀 貴久	
3	眼精疲労のメカニズムを学ぶ ～不眠、頭痛、肩こりなど体の不調と目の関係～	いでた平成眼科クリニック 検査部長 木下 雄貴	
4	心と身体を整えて 疲れ目スッキリ！ ～目と体をいたわる 生活習慣～	社) 日本ヨーガ療法学会 認定ヨーガ療法士 石田 貴子	

<成果>

- 「目」に絞って多様な視点から講座を構成したことで、疾病による症状の違いや日常生活で気を付けること等について、詳しく学ぶことができた。
- 講師が、写真や動画等の資料を豊富に準備されたので、内容をより具体的に理解することができた。



☆実施上のポイント☆

- 1つの部分に絞って講座を企画
「健康」に関わる多くの事項の中から、ニーズの高いものに焦点をあてて企画する。
- 講師がお互いの講座を参観
→内容の重なりを防ぐだけでなく、受講生の様子や講座の雰囲気把握した上で話をしてもらえることで、受講生の満足度が高まる。

【くまもと県民カレッジ主催講座③】

コース名	環境コース		
テーマ	わたしにもできるSDGs ～将来に残したい 豊かな熊本の自然～		
背景	SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2030年までに達成するための17の目標が設けられている。		
ねらい	私たちの生活に身近で、子供も大人も取り組みやすい環境面に関する目標について学び、日常生活の中での実践化の意識を高める。		
回	演題	講師	日時
1	世界が取り組むSDGs ～ゲームで学ぶ17の目標～	NPO 法人 SDGs Association 熊本 代表理事 神田 みゆき	火曜 14:00～ 15:30
2	小国町が目指す循環型社会 ～エコエネルギーによるまちづくり～	ネイチャーエナジー小国株式会社 代表取締役 芦刈 義孝	
3	「環境首都」水俣に学ぶ ～持続可能なまちづくり～	水俣市総務企画部 市長公室政策調整係	
4	食品ロス削減プロジェクト ～高校生有志グループの挑戦～	熊本学園大学付属高等学校 NextNexus・Reclothes	
5	私に取り組むSDGs ～笑顔あふれる世界のために～	NPO 法人 SDGs Association 熊本 代表理事 神田 みゆき	

<成果>

- ゲームやワークショップを取り入れることで、SDGsの意味や事例について、分かりやすく学ぶことができた。
- 受講生の感想に「よく理解できた」「町内活動に役立った」というものがあり、自身の学びを実生活に生かそうとする姿が見られた。



☆実施上のポイント☆

○SDGsについての理解から実践化へ

県内の「SDGs未来都市」から講師を選定し、具体的な取組（事例）を多く紹介することで、自分の強みを生かした日常での実践について考えられるよう、講座を構成する。



【くまもと県民カレッジ主催講座④】

コース名	ボランティアコース		
テーマ	ボランティア入門講座 ～情けは人のためにあらず！人知れず活動する人から学ぶ～		
背景	災害の発生によりボランティアの需要や関心が高まってきている。そこで、ボランティアに関心がある方を対象とした学習機会の提供が必要である。		
ねらい	様々なボランティアの活動を知るとともに、自分にできることを見つけ出し、実践につないでいく。		
回	演題	講師	日時
1	ボランティア活動の意義を知る ～ともに支え合うために～	東海大学 准教授 安部 美和	木曜 19:00～ 20:30
2	実践者の思いから学ぶ① ～被災者の心に寄り添ってがんばりたい～	水俣芦北広域地域団体やまびこ 代表 村上 竜也	
3	実践者の思いから学ぶ② ～被災経験から、求められる支援を～	くまもと友救の会 代表 松岡 亮太	
4	実践者の思いから学ぶ③ ～目の前の子供達の気持ちを受け止めたい～	認定 NPO 法人カタリバ パートナー 井下 友梨花	
5	ボランティア活動をシミュレーション ～次、災害が起こった時に、動ける自分に！～	熊本県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長 桂 誠一	

<成果>

- 実際に、災害ボランティアに様々な立場で携わった各講師のお話にはそれぞれの思いと説得力があり、受講生の活動への意欲向上につながった。
- 活動時の留意点が示され、ボランティアをする際の具体的なイメージをもつことができた。



☆実施上のポイント☆

○受講生同士の交流の場に

自身の知識を深めるだけでなく、交流の場・仲間づくりの場として講座に参加したいと考えている方のために、ワークショップ等の時間を意図的に設定する。



第4章 学習機会提供事業
【人材育成・認証制度】

人材育成・認証制度
～くまもと県民カレッジ認定講師の取組～

1 事業の目的及び仕組み

- ・個人の学びやスキル生かし、講師としての専門性を高め、地域活動につなげる

本課では、令和元年度から、人材育成・認証制度として、「くまもと県民カレッジ認定講師（以下認定講師とする）」の取組を実施している。

自分が学んだことや身につけていることを生かして、地域の公民館などで生涯学習の講師として積極的に活動したい人を対象に、講師としての基本的スキルを育成する「①講師養成」の講座を開催し、その後、講師としてのスキルが一定の水準に達した方を認定講師として認証する「②認定試験」を実施します。また、認定講師に登録された方の「③フォローアップ及び活用」として、周知・広報等の活動支援や学び直し、また、学習成果活用の場の設定を行っている（下図参照）。



【「令和5年度 認定講師一覧」の表紙】

① 講師養成

- 講師として活動するための基礎的な知識やスキルを学ぶ
- くまもと県民カレッジ主催講座（前期）5月～7月に実施

② 認定試験

- 認定試験を行い、一定の水準に達した方に認定証を発行
- くまもと県民カレッジ主催講座（後期）10月～3月に実施

学び直し

③ フォローアップ及び活用

- 認定講師の活動支援として、認定講師一覧を作成し、市町村教育委員会や公民館等に配布するとともに、県生涯学習推進センターホームページに掲載
- 本課への学習相談（講師紹介）時に積極的にマッチング
- 学習成果活用の場として、くまもと県民カレッジ主催講座「バラエティコース」を実施

2 取組の実際

(1) 講師養成の取組

「自分が学んだことや身につけたことを伝えたい、教えたいと考えている方」を対象として、くまもと県民交流館パレアを会場に、くまもと県民カレッジ主催講座（前期）で「講師養成コース」を実施している。

この「講師養成コース」は基本的に5回の講座で構成し、講師としての心構えや講座の企画の他、プレゼン力やマナー等の基礎的スキルについても学ぶことができる。

また、令和4年度は、コロナ禍ということもあり、オンライン講座を運営するための基礎的内容を取り入れ、認定講師の「学び直しの間」としても活用できるように企画した。今後も、講師として活動するための基礎的な知識やスキルを学ぶ講座内容とともに、時代の変化に応じた講座内容も企画していきたいと考える。

○令和4年度開催「講師養成コース」

テーマ	回	演題
講師養成講座 2022 ～コロナ禍から生まれた講師のカタチ～	第1回	求められる生涯学習の講師とは ～コロナ禍から生まれた講師のカタチ～
	第2回	魅力的な講座企画のために ～「伝えたいこと」と「求められていること」～
	第3回	オンライン講座の実際（準備編） ～運営のために必要な基礎知識～
	第4回	オンライン講座の実際（実践編） ～講座運営を体験しよう～
	第5回	分かる・伝わる話し方のコツ

○令和5年度開催予定「講師養成コース」

テーマ	回	演題
講師養成講座 2023 ～あなたの「好き」 を生かして 新しい 世界へ～	第1回	生涯学習の講師とは ～あなたの「好き」を「やりがい」に～
	第2回	講師に必要なプレゼン力とは ～伝えたいことを、しっかり伝えるために～
	第3回	参加型プログラムを学ぶ ～双方向で対話・活動を深める～
	第4回	受講者が満足する講座を組み立てる ～講座企画のノウハウ教えます～
	第5回	講師としての一歩を踏み出す日（模擬講座） ～やって、感じて、考えよう！～

※ 「講師養成コース」を受講した後、「講師認定コース（認定試験）」を受講することが望ましいが、必須ということではない。

※ 「講師養成コース」を受講できる人数にも制限があるため、受講希望者が多数の場合は抽選となる。

(2) 講師認定の取組

生涯学習の講師として積極的に活動したい方を対象として、くまもと県民交流館パレアを会場に、くまもと県民カレッジ主催講座（後期）で「講師認定コース」を実施している。

この「講師認定コース」は、認定試験を実施し、一定の基準に達したと認められる方に認定証を発行する、人材認証の取組である。

実際の認定試験は、30分間の模擬講座であり、受講者は各自の専門とする内容で講座を企画して試験に臨む。試験は、社会教育・生涯学習に関する複数の有識者が「講座企画力（コンテンツ）」「資料作成力」「話し方」「学習展開力（プロセス）」「コミュニケーション力」「清潔感」の6つの項目から多面的に評価を行い、認定の有無を判断する。

認定された講師には「登録宣誓書」を提出していただき、認定証を発行する。登録については1年毎に更新することとし、毎年、年末に活動状況報告書を提出いただくとともに継続の意思を確認している。

「登録宣誓書」の内容（抜粋）

- ・生涯学習の成果やボランティア活動の経験、仕事で培った知識やスキル等を生かして、地域における市民活動の一環として生涯学習の講師を務めます。
- ・仕事の宣伝や営利を目的とするもの、特定の政治や宗教に関する講座は実施しません。
- ・認定講師活動状況報告書を提出し、登録継続の意思を伝えます。

また、「登録宣誓書」の内容以外に、「今後もスキルアップ、引き出しを増やすなどの自己研鑽が必要であること」「講師としての交渉や対応は、依頼先から信頼されるようにすること」「依頼に対して社会貢献の気持ちを持ち、低料金で引き受けていただきたいこと」なども認定講師に伝えている。

※ 令和5年度時点で登録されている認定講師は30名です。様々な分野の講師が登録されていますので、是非ご活用ください。

○令和4年度開催「講師認定コース」

テーマ	回	演題
くまもと県民カレッジ認定講師にチャレンジ！～生涯学習の講師としての活動の場を広げよう～	第1回	オリエンテーション ～認定試験に向けての事前説明会～
		認定試験① ～くまもと県民カレッジ認定講師にチャレンジ～
		認定試験② ～くまもと県民カレッジ認定講師にチャレンジ～
	第2回	認定試験を振り返る ～講師として活動を続けるために～

※ 認定試験は各受講者1回行い、受講者が少ない場合は1日で実施する。

※ 「講師認定コース」は基本的に土曜日に開催する。

(3) フォローアップ及び活用の取組

ア 認定講師の活動支援

毎年度末に認定講師一覧を作成し、県内各市町村教育委員会や公民館等に配布するとともに、県生涯学習推進センターホームページに掲載する。

また、認定講師が自主講座等を実施する際には、チラシをパレアに配架するなど周知・広報の支援を行う。

イ 認定講師の活用

認定講師を本課の「講師リスト」に追加し、一般の方や各市町村から学習相談（講師紹介）があった際には、依頼内容に応じた認定講師を紹介するなど、積極的にマッチングを行う。

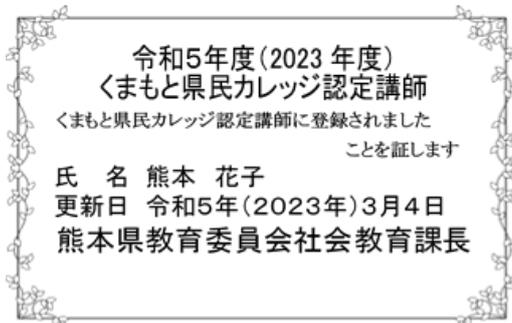
ウ 学習成果活用

令和4年度から、認定講師の活躍の場の設定と県民の生涯学習と学習成果活用についての意識を高めることを目的として、くまもと県民カレッジ主催講座（前期）において「バラエティコース」を実施している。

くまもと県民カレッジの通常のコースでは、90分の講座を5回で構成しているが、「バラエティコース」については、多くの認定講師の活躍の場を設定するため、1回の講座に2名の認定講師に出演していただき、それぞれの講師に45分の講座を実施していただいている。計10名の認定講師がバラエティ豊かな講座を展開するため、人気の高いコースとなった。

1	あきやま つとむ 秋山 努		
分野	・お絵描き会 ・メンタルケア		
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くことで、日頃感じているストレスを軽減。 ・“上手”に描くことを目標にせず、絵を描く“楽しさ”を感じてもらうことが目的の講座です。 ・メンタルケアの講座も可能です。 		
準備物	イラストを描く講座は、使い慣れているペンや鉛筆、スケッチブックなど。ホワイトボードとペン、参加人数分の机と椅子 ※iPadなども持ち込み可		
対象者	小学生・中学生・高校生・成人一般 高齢者	対象地域	県北・県央・県南 ※JR・バスで行ける所
実施可能日	平日（夕方5時～） 土曜日・日曜日（要相談）	経費	講師料：要相談（交通費含む） 教材費：200～500円（色紙使用の際）
主な活動歴	<ul style="list-style-type: none"> ・「心に効くお絵描き会」絵のキホンを小学生を中心にWS形式で実施 ・「アイコンや自分の絵を作ろう」SNSのアイコンをWSにて作成 ・「ハロウィーンお絵描き会」県内就労支援サービスにて、小学生～大人の方と一緒にハガキやバッチを作成 		

【令和5年度 認定講師一覧】の講師紹介ページ】



【認定講師登録カード（名刺サイズ）】

○令和4年度開催「バラエティコース」

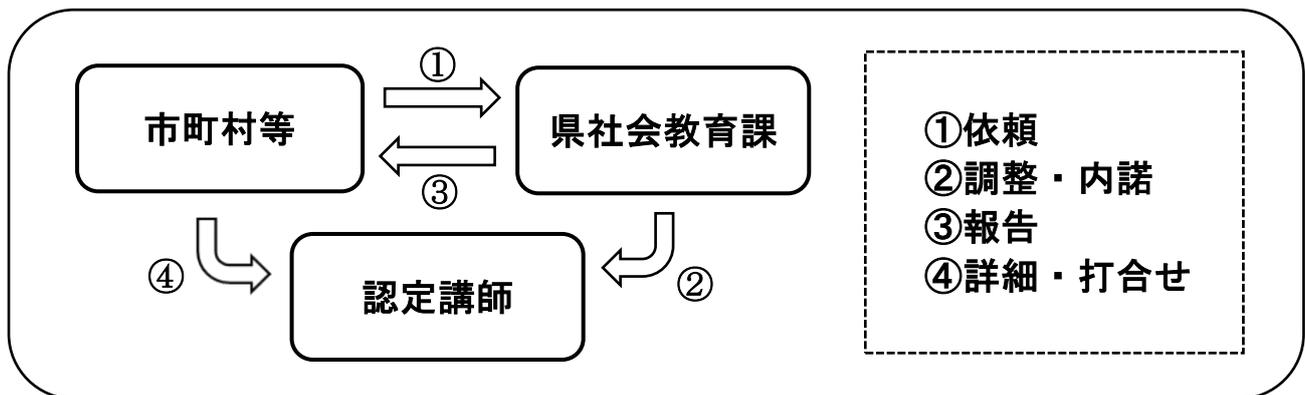
テーマ	回	演題
生涯学習「宝箱」！ ～くまもと県民カレッジ認定講師10名によるバラエティ講座～	第1回	①家族で野菜育てを楽しみ 健康生活をしよう ②レクリエーションでコミュニケーション
	第2回	③地球を守り隊 菌活で生ゴミ堆肥化隊員募集!! ④もしもの時に！～大切なのは命を守ることに～
	第3回	⑤ブルーベリーの育て方 ⑥笑うこと～命とともに歩む道～
	第4回	⑦米粉ってなに！！ ⑧日本の民族衣装を学ぶ“きもの”を紐解く
	第5回	⑨笑顔と感謝で悪性リンパ腫脱出！！ ⑩世界遺産いじわるカルタ

3 お知らせとお願い

年度末に配布される「認定講師一覧」や「県生涯学習推進センターホームページに掲載されている認定講師一覧」をご覧いただき、講演等を依頼されたい講師が見つかりましたら、県社会教育課へご連絡ください。

本課の方で認定講師に連絡を行い、依頼の内容（日時・場所等）についてお伝えし、出演の可否を確認後、内諾を得た上で、認定講師の連絡先をお伝えします。

その後の、講演等に係る詳細については、講師と直接相談して決定していただきます。また、ご不明な点等はお気軽にお問合せください。



【問合せ先】

熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育連携班

TEL: 096-333-2698

Mail: shakaikyoku@pref.kumamoto.lg.jp

今後も、生涯学習の様々な分野で活躍できる講師を養成し、認定講師の登録数を増やしていくとともに、認定講師のフォローアップの充実及び成果の検証に努めていきます。

各市町村教育委員会及び公民館等におかれましては、今後も生涯学習の講座等で認定講師の積極的な活用をお願いするとともに、それぞれの地域で活動されている様々な分野の生涯学習の講師の方に本制度をご紹介いただくなど、本制度の普及促進にご協力いただきますようお願いいたします。

第5章 先進地事例紹介

【事例1】インターネットを活用した事業

全国公民館連合会主催第4回インターネット活用コンクール奨励賞

北九州市立日明市民センター 「オンライン家庭教育学級」 すぐに活用できる仕組み



～既存の事業を連携と試行錯誤で新しい形へ～

効果① <運営主体>

既存の形にとらわれず、新しいものをチームで創造していくことで、企画運営側の主体性が育まれる。

効果② <保護者・地域>

講座参加方法の選択肢が増えることで、多様な学びの形や新たなつながりが生まれる。

■事業の目的

～ピンチをチャンスに 学びを止めない初めてのオンライン講座～

北九州市では、住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、小学校区単位に「まちづくり協議会」と「市民センター」を設置している。市民センターの管理運営は、まちづくり協議会に委託され、開館・閉館、利用の受付・案内、実施事業の補助事務等に住民が参画しており、地域の自主的・主体的な地域づくり・まちづくり活動を育み、地域活動の拠点施設となっている。

～日明小学校区～

・人口	10,649人
・世帯数	5,683世帯
・高齢化率	27.7%
・職員数	3人

日明市民センターでは、地域住民にできる限り最新の情報を提供できるようにと、HPでの情報提供に加え、2017年からFacebookによる情報発信も行ってきた。その後も、情報発信にとどまらず、住民参加の企画による双方向でのオンライン講座、学校と連携したオンライン発表会等、オンラインを利用した参加型のさまざまな企画を実現している。

また、コロナ禍における学校の長期休校・各種研修会の中止等を経験する中で、インターネットを活用した学習機会の必要性をさらに強く感じたこと、「コロナ禍でも学びを止めない」「今だからできることをやろう」ということから「オンライン家庭教育学級」の開催が決まった。



Facebookによる情報発信



YouTubeチャンネルでの
オンライン文化祭

■事業の仕組み

～初めてのことに苦労はつきもの やってみて、修正して、実現させる～

北九州市における家庭教育学級は、保護者が家庭で子供を教育する心構えや、子供への接し方など、家庭教育上の共通の問題を、一定期間にわたって、計画的に、継続して学習する場である。保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校ごとに実施しており、企画・運営は主に主催者である市民センターとPTA、学校等が協力して行っている。今回の「オンライン家庭教育学級」は、開催する側も、参加する側も初めてのことで、何度も修正を行い、試行錯誤しながら開催を実現させた。

まず、企画会議において、講座内容や開催までの計画等について検討し、操作に不慣れな参加者のためにオンライン接続の手順書を作成した。環境整備においては、「シニア向けスマホ教室」の講師に、ネット環境の設備確認及び技術的なサポートを依頼し、開催前に2回の接続テストを行った。接続テストに参加した複数のPTA役員にアンケートをとり、不具合については修正・改善を重ね、本配信に備えた。

本配信は2回行い、内容はSNSの利用の仕方や情報モラル等について親子で楽しみながら学べるものが実施された。この取組は、北九州市内でも先駆的な事例であったため、その様子は動画に収録され、他センターも参考にできるようにYouTubeチャンネルにもアップロードされた。

■仕組みによる効果

～苦労の後の達成感と自信 新しい方々とのつながり～

初めての試みに試行錯誤しながら計画を進め、限られた機器、予算、人員の中で「オンライン家庭教育学級」が実現できたことや、自分たちがやりたい活動を仲間とともに実行できたことは、講座の企画・運営に携わった職員・PTA委員・関係者にとって、大きな自信につながった。

また、コロナ禍で日常のPTA活動や研修機会が中止となり、日常のつながりが絶たれる状況であったが、今回の取組によって参加者同士の新しいつながりを生み出すことにもつながった。

■今後の方向性

～コロナ禍で得た新しい形をいかして よりよいものに～

オンライン講座は、これまで参加が難しかった方々の学ぶ機会の創出や、より多くの多様な参加者を得ることにもつながる。また、デジタル機器の操作や留意点を親子で一緒に学ぶ経験は、デジタルリテラシー向上の一助となる。今後は、募集・申込・参加までがオンラインやインターネットで完結できるようにしたり、リアルとオンラインの併用（ハイブリッド型）講座を企画したりと、時代の変化に合わせた講座運営の在り方について模索していく。

「オンライン家庭教育学級」の詳細

目 標	親子で楽しくオンライン（リモート）講座を体験し、情報モラルやネット利用について学ぶ機会をつくる。
対象者	北九州市立日明小学校児童、保護者
運営体制	日明市民センター職員、日明小学校PTA家庭教育学級委員
開催方法	Zoomミーティングを使用したオンライン開催
内 容	・親子で学ぶ情報モラル ・ネット利用の注意点 ・プログラミング必修化について 等
開催日時	令和3年度は2回開催。9月・11月の土曜日 10時～正午
事業の流れ	<p>【企画会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オンライン家庭教育学級」の開催や内容について検討。 ・参加者がオンライン接続するための手順書を作成。 <p>【講師依頼】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット・スマホアドバイザーに、オンライン開催のための設備確認や接続サポートを依頼。 <p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット接続に足りない配線等の購入。 ・家庭教育学級委員内で、事前の接続テストを2回行う。 (平日の昼間、講座開催時と同曜日・同時間帯) ・接続テストに参加した委員から感想や意見を集め、資料等の修正を行う。 <p>【周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オンライン家庭教育学級」開催のチラシを、児童を通じて配布。 ・申込みされた方への通知、接続のための手順書を、児童を通じて配布。 <p>【本配信】</p>
予算の概要	テスト配信2回、本配信2回 講師謝金 21,000円（日明市民センター家庭教育学級予算より）
開催実績及び参加者数	<p>9月26日（土） 開級式・講座① 大人19名、子供10名</p> <p>11月14日（土） 講座②・閉級式 大人13名、子供 7名</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍だからできる学びを」という委員の意見をもとに、中止ありきではなく取組を進めたことで、初めてのオンライン開催を実現することができた。 ・既存の形にとらわれず挑戦したことで、参加者同士がつながり、喜んでもらったことは、運営側にとっても自信となった。
課題	・本来は3回の開催を予定していたが、周知・申込・通知がオンライン対応できていなかったため、中止せざるを得なかった。

第5章 先進地事例紹介

【事例2】協働による地域づくり事業

文部科学省 第74回優良公民館表彰 表彰館

山口市吉敷地域交流センター

「笑顔あふれる ふれあいのまちづくり」



すぐに活用できる仕組み

～行政・地域団体・住民の連携・協働による風通しのよい関係づくり～

効果① お互いの会議・事業への参加や情報共有から、スムーズな運営、地域のつながりが生まれる。

効果② 若者を取り込む体制を整えることで、新たな事業展開や次世代人材育につながる。

■事業の目的

～新たな地域コミュニティの形成を目指した運営体制と明確な取組設定～

吉敷地域では、近年、国道の整備等による団地の造成やアパートの建設が進み、人口が急増している。以前から住んでいる世帯よりも他地域から移住してきた世帯の方が多くなり、住民同士の交流や地域行事の参加者の固定化等の課題が生じている。こうした住民の生活環境の変化により、新たな地域コミュニティの形成が必要であった。

～吉敷地域～

- ・人口 14,863人
- ・世帯数 6,802世帯
- ・高齢化率 24.2%
- ・職員数 行政8人
地域づくり協議会4人

平成21年に「山口市協働のまちづくり条例」の施行により、「吉敷公民館」から「吉敷地域交流センター」へ名称が変更され、センターに地域づくり協議会事務局と地域の各種団体・協議会を置いて、地域づくり活動の拠点とする運営体制をとることとなった。

その中で、地域づくり協議会では、吉敷まちづくり計画（平成30年度～34年度）を策定し、地域課題を「①地域振興 ②地域福祉 ③安心・安全 ④環境づくり ⑤地域個性創出」の5つの分野に整理し、それぞれの分野における取組や事業、主な活動団体を明確にして取り組んだ。この計画を実現していくためには、地域住民の理解が重要であることから、計画書や事業情報等を分かりやすい

▲まちづくり計画:整理した課題に基づく活動目標

形にまとめ、広報誌やウェブサイトを活用して情報発信に努めている。

さらに、若者を巻き込んだ地域づくりを進めるため、実行委員会形式での事業運営にも取り組んでいる。

■事業の仕組みと効果

～「行政・地域団体・住民」みんなの思いを受け止めながら 力を集める～

吉敷地域では、行政と地域づくり協議会をはじめとする地域の各団体・協議会が、お互いの会議や事業に参画し、役割分担をしながら事業を進めている。お互いの強みを生かすこと、弱みを補い合うこと、そして何よりも密に情報共有の場があることで、「地域のために」という共通の目的を確認しながら事業の検討、振り返りが行われている。行政、各団体・協議会が、これまでそれぞれで行っていた取組・活動に、「横串をさす」形での運営体制が、地域一体となった事業へと発展し、地域の活性化につながっている。

吉敷地区大運動会や吉敷ふるさとまつり等では、実行委員会形式を取り入れている。実行委員に地域の若者（20代～40代）の参画を得ることで、新たなアイデアが生まれたり、コロナ禍でもやれることに挑戦できたりと、これまでのマンネリ化した内容により変化が起こった。仕事や子育て等で時間がない若者の取り込みは容易ではなく、実行委員会形式に完全に移行するまでには3年かかったが、人と人とのつながりを大切にしながら少しずつその輪を広げていった。ポイントとしては、若者の事情や思いに寄り添い、「都合がつかずならば、参加してね」のスタンスをもつこと、若者ならではの発想や企画を受け止めて生かそうとするベテランの存在があったことである。

また、広報委員会を設置し、広報誌の発行、ウェブサイトによる地域情報発信を行っている。広報委員会は、地域づくり関係団体（14団体）から各1人、地域づくり協議会の事務職員、地域交流センターの職員で構成している。地域づくり関係団体の方が委員になっていることから、地域の話や活動、特色などの幅広い情報を提供することができている。



■今後の方向性

～アンケートから見えた住民の思いをもとにした「新たな計画」・「新たな形」～

第二次吉敷まちづくり計画（令和5年度～9年度）作成に向けて、中学生以上の住民にアンケートを行い、住民の要望、地域の実態により合った計画を検討している。引き続き、行政と地域の連携を強めながら、地域住民に主体的に関わってもらえる地域づくりを目指す。アンケート結果から、SNSでの受発信は若い世代だけではなく、幅広い世代において利用されていることが確認されたことから、今後SNSを活用した情報発信について検討し、取り組んでいく。

「実行委員会形式による事業」の詳細

目 標	住民の交流促進・地域コミュニティの活性化
対象者	吉敷地区住民
運営体制	実行委員会
内 容	<p>■よしき夏まつり 屋台出店・ステージイベント・お楽しみ抽選会・盆踊り</p> <p>■吉敷ふるさとまつり 屋台出店・文化団体活動発表・ステージイベント・お楽しみ抽選会・もちまき</p>
開催日時	<p>よしき夏まつり：8月13日 18時～21時</p> <p>吉敷ふるさとまつり：11月第2日曜日 9時～15時</p>
事業の流れ	<p>令和元年度吉敷ふるさとまつりの例（※令和2年度以降は規模縮小）</p> <p>9/12 消防団へ協力依頼、幼・保・小・中へ展示作品の出品依頼 センター利用団体へ参加調査票を送付</p> <p>9/13 検討委員会 （前年度の振り返り、今後のスケジュール確認）</p> <p>10/9 部門別会議 （ステージ発表、屋内展示、運営補助に分かれて各種確認）</p> <p>10/16 出店者会議 （出店の配置やスケジュール、注意事項等の確認）</p> <p>10/23 第1回企画委員会 （参加団体と配置・プログラム確認、お楽しみ抽選会の景品検討）</p> <p>10/30 第2回企画委員会 （当日の役割分担、プログラム等確認）</p> <p>10月中 消防署・保健所・警察署へ届け出、駐車場借用先へ依頼 警備会社打ち合わせ、保険契約</p> <p>11/1 地域広報紙11月号で告知・プログラムを各戸配布</p> <p>11/5 実行委員会 （プログラム、会場配置、当日の役割分担等確認）</p> <p>11/6 第3回企画委員会 （プログラム、会場配置、当日の役割分担等確認）</p> <p>11/9 前日準備</p> <p>11/10 当日</p>
予算の概要	<p>¥470,000</p> <p>地域づくり協議会より（交付金¥320,000・自主財源¥130,000）</p> <p>良城商工振興会より（協賛金¥20,000）</p>
参加者数	約1,000名
成 果	多くの来場者があり、地域活性化の場になっている
課題	<p>担い手の更なる取り込み</p> <p>協力者の高齢化（夏まつりで櫓設営を担う消防団など）</p>

この調査は、県内の生涯学習講座の現状等を調査し、生涯学習振興を図るための資料とすることを目的としています。御多用の折とは存じますが、調査の趣旨を御理解の上、御協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は、「調査研究事業報告書」としてまとめ、公表いたします。

○記入について

- ・ 選択式の質問は、該当する選択肢のセルに○印をつけてください。
- ・ 記述式の質問は、該当があれば内容を記述ください。

○提出について

御記入いただきました調査票は、令和4年(2022年)12月16日(金)までに、メールにて下記に御提出ください。

〔提出先〕 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課(担当:清永) メール:kiyonaga-a@pref.kumamoto.lg.jp

市町村名		所属	
記入者	職	名前	
連絡先	電話番号	メールアドレス	

本年度の主催講座・講演会について

問1 本年度、貴市町村の教育委員会(公民館等も含む)主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定) → 問2へ
- イ 実施していない(予定していない) → 理由:
- 問3へ(3ページへ)

問2 問1で「ア 実施した(する予定)」と回答した市町村にお尋ねします。

(1) 本年度実施した(予定)講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ア 健康
- イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
- エ 高齢化社会
- オ 生命
- カ 豊かな人間性
- キ 消費者問題
- ク 地域の連帯／まちづくり
- ケ 男女共同参画型社会
- コ 科学技術
- サ 情報の活用
- シ 国際理解／国際貢献・開発援助
- ス 防犯・防災
- セ 食育
- ソ 法教育
- タ 経済
- チ 起業
- ツ 人権
- テ 職業上必要な知識・技能
- ト 個人のキャリア開発
- ナ ボランティア活動の推進
- ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ニ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ネ その他

(2) (1)の講座等の合計実施回数を下から選んでください。(予定も含む)

- ア 1～5回
- イ 6～10回
- ウ 11～20回
- エ 21～30回
- オ 31回以上

(3) (1)の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。

- ア すべて1回ごとの単発の講座や講演会である。
- イ 連続した講座や講演会もある。
(「連続した」とは、1つのテーマで異なる内容の講座を複数回実施すること)

(4) (1)の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕

- ア 地域の大きな課題だから
- イ これまで継続して実施しているから
- ウ 住民のニーズが高いから
- エ 他の市町村でも実施しているところが多いから
- オ 他部局や関係団体等との連携が可能だから
- カ 講師選定が容易だから
- キ 人が集まりやすいから
- ク その他

(5) (1)の講座等を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関(構成員を含む)がありますか。

- ア ある
連携・協力した個人・機関を下から選んでください。〔複数回答可〕
 - ア 他市町村教育委員会(公民館等を含む)
 - イ 首長部局
 - ウ 学校教育関係機関
 - エ 大学等高等教育関係機関
 - オ 社会教育関係団体
 - カ NPO法人他、民間団体
 - キ 民間企業
 - ク (講座受講生などの)一般住民
 - ケ その他

イ ない → 問2(7)へ

(6) (5)の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕

- ア 企画時の相談、情報提供
- イ 講師派遣等の人的支援
- ウ 施設設備、機材教材等の提供
- エ 参加者の募集等の広報面での補助・分担
- オ 事業の成果を広めるための連携・協力
- カ 経費面での補助・分担
- キ 当日の運営面での作業分担、協力
- ク その他

(7) (1)の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕

- ア 講義・講演会形式
- イ ワークショップ
- ウ フォーラム・シンポジウム
- エ 現地学習
- オ 体験活動
- カ 個別相談
- キ インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)
- ク インターネットにおける双方向の配信
- ケ その他

(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕

- ア チラシ、ポスター配布
- イ 関係機関・団体への直接依頼(チラシの送付)
- ウ 回覧板での通知文回覧
- エ ホームページ掲載
- オ 広報誌掲載
- カ 広報誌以外の生涯学習に関する情報誌の発行
- キ SNSへの掲載
- ク 地域の無線利用
- ケ その他

(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 参加者に対するアンケート調査
- イ 担当者等による評価
- ウ 外部委員による評価
- エ 講師による評価
- オ その他
- カ 実施していない

(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕

- ア 生涯学習関係課職員や公民館職員
- イ 他部局の職員
- ウ 地域住民
- エ 県や他市町村からの派遣
- オ 大学・研究機関からの派遣
- カ 民間業者を介して依頼
- キ その他

(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕

- ア インターネット情報
- イ 住民(受講参加対象者)の要望
- ウ 他市町村に聞く
- エ 所属内で検討する
- オ リストを作成している
- カ 講座内容に関連した他部局や団体等に聞く
- キ 講師情報の提供を行っている機関等に聞く
- ク 例年同じ人に依頼
- ケ その他

(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 駐車場の確保
- イ 送迎バス等の運行
- ウ 託児の実施
- エ 手話通訳、要約筆記
- オ 音声ガイダンス
- カ スロープ、多目的トイレ等の設置
- キ 休日や夜間の開催
- ク インターネットにおける一方向の配信(リアルタイム・オンデマンド)
- ケ インターネットにおける双方向の配信
- コ その他

学習成果活用を目的とした事業について

問3 学習成果活用を視野に入れた講座(人材育成や仲間づくり、人材活用等)を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)

(講座名)	(内容)
-------	------

- イ 実施していない(予定していない)

子供を対象とした事業について

問4 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)

(事業名)	(内容)
-------	------

- イ 実施していない(予定していない)

障がい者の生涯学習の推進等について【新規】

問5 様々な障がいについての理解や障がいがある方への支援に関する講座を実施しましたか。

ア 実施した(実施する予定)

(具体的に)

イ 実施していない(実施する予定はない)

社会の変化やニーズに応じた工夫や取組について【新規】

問6 今年度実施した(または実施予定の)事業における工夫や取組(例:新規開設講座、成果があった取組等)について1つ御記入ください。

(具体的に)

住民への提供が必要だと考えられる事業について

問7 今後、住民への提供が必要だと考えられる事業の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕

- ア 健康
- イ 家庭・家族(子育て・家庭教育)
- ウ 環境／人口・食糧／資源・エネルギー
- エ 高齢化社会
- オ 生命
- カ 豊かな人間性
- キ 消費者問題
- ク 地域の連帯／まちづくり
- ケ 男女共同参画型社会
- コ 科学技術
- サ 情報の活用
- シ 国際理解／国際貢献・開発援助
- ス 防犯・防災
- セ 食育
- ソ 法教育
- タ 経済
- チ 起業
- ツ 人権
- テ 職業上必要な知識・技能
- ト 個人のキャリア開発
- ナ ボランティア活動の推進
- ニ 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動、スポーツ、料理、創作活動 など)
- ニ 教養的なもの(文学、歴史、語学、科学 など)
- ネ その他

生涯学習推進上の課題や悩み等について

問8 生涯学習を推進する上での課題や悩みがありますか。

- ア ある → 問9へ
 イ ない → 問10へ

問9 問8で「ある」と答えた方にお聞きします。課題や悩みの内容をお教えてください。〔複数回答可〕

- ア 住民のニーズの把握が難しい
 イ 講座企画が難しい
 ウ 人が集まらない
 エ 受講生が固定化している・新規受講生の獲得が難しい
 オ 講師選定が難しい
 カ 首長部局や関係機関との連携が難しい
 キ 講座等で学習したことを活動につなげることが難しい
 ク 予算が限られている
 ケ 職員研修の機会が少ない
 コ 職員数が少ない
 サ 研修等に関する住民からの相談や対応が難しい
 シ 住民同士のつながりづくりが難しい
 ス 施設の老朽化が進んでいる
 セ その他

その他について

問10 (1) 社会教育指導員に対する研修を実施していますか。(社会教育指導員が配置されていない市町村は「イ 実施していない」を選択してください)

- ア 実施している(実施予定) → 問10(2)、(3)へ
 イ 実施していない → 終了

(2) (1)の研修は、年間、何回実施していますか。数字を入力してください。

回

(3) (1)の内容を具体的に御記入ください。

発 行 者：熊本県
所 属：熊本県教育庁市町村教育局
社会教育課
発行年度：令和4年度(2022年度)